

第3部 福島県卓球協会各支部の組織と活動

第1節	福島県卓球協会県北支部	165
第2節	福島県卓球協会県中支部	169
第3節	福島県卓球協会県南支部	175
第4節	福島県卓球協会会津支部	179
第5節	福島県卓球協会相馬支部	186
第6節	福島県卓球協会いわき支部	202

第1節 福島県卓球協会県北支部

支部長 二木 康 視

設立年月日：昭和4年12月1日

設立の経過：明治の末期頃から、福島市や当時の飯坂町の子供たちの間でピンポンゲームが流行し、大正時代の末期から昭和の初期にかけて、当時の百七銀行の石川洋爾氏や農工銀行の諸橋氏が卓球を熱心に指導していたのが引き金となって愛好者が多くなり、卓球協会設立の気運が高まり、昭和4年12月1日に目黒宗英氏を会長、田辺栄治郎氏を理事長に選び、発足した。

〈歴代の支部長〉

氏名	期 間	職業・勤務先
目黒 宗英	昭和4～23	目 黒 業 局
後藤 寿二	24～42	花 月 旅 館
笹山 進	43～48	緑ヶ丘高校
菊地 英作	49～54	東亜栄養化学工業
紺野 政男	55～60	国 鉄 職 員
三浦 勝美	61～平成2年	教 員
二木 康視	平成3年～現在	二 木 商 店

〈歴代の理事長〉

氏名	期 間	職業・勤務先
田辺栄治郎	昭和4～23	東 北 配 電
菱沼 欽二	24～30	郵 便 局
佐藤利三郎	31～35	福 島 県 庁
笹山 進	36～40	福 島 女 子 高 校
小幡 次郎	41～44	卓 球 用 品 店
小野 哲男	45～48	小 野 電 機
二木 康視	49～平成2年	二 木 商 店
伊藤 秀行	平成3年～7年	東 邦 銀 行
甚野 道雄	平成8年～現在	トーアエイヨー(株)

〈現在の主な役員〉

名誉会長	三浦 勝美(元 教 員)
支 部 長	二木 康視(二木商店)
副 会 長	佐藤 紀雄(福島西高校)・伊藤 秀行(東邦銀行)・岸 ひろみ(主婦)
副理事長	大藤 務(大藤機械)
理 事 長	甚野 道雄(トーアエイヨー)
事務局長	渡辺 邦彦(アルペンスポーツ)

〈現在まで実施した主な事業・行事〉

平成元年6月：日中交歓卓球大会(福島体育館)

〈現在行っている年間大会名〉

大 会 名	開始年度	参加人員
全日本卓球選手権予選大会	昭和23年度～	1,000名
北福島オープン卓球選手権大会	昭和43年度～	980名
小・中学生学年別卓球選手権予選大会	昭和48年度～	540名
県北団体卓球選手権大会	昭和49年度～	600名
福島市家庭婦人卓球大会	昭和53年度～	100名

T P S 杯卓球選手権大会	昭和55年度～	650名
全日本カデットの部予選大会	昭和59年度～	550名
県北ダブルス卓球選手権大会	平成元年度～	400名

〈卓球の普及・発展に貢献した功労者〉

(1) 目黒 宗英

福島県卓球協会・福島県卓球協会県北支部初代会長として、長年にわたり卓球の普及・発展に尽力し、卓球会の基盤を築き上げた功労者である。

(2) 田辺栄治郎

福島県卓球協会・福島県卓球協会県北支部初代理事長として、組織の充実に努力され昭和初期には、県内一の技術を発揮し、明治神宮大会、その他の全国大会・東北大会では、輝かしい戦績を残し、全国に田辺選手ありと名声を上げ、長年にわたり本県卓球の普及・発展に尽力した功労者である。

(3) 後藤 寿二

昭和24年に福島県卓球協会・福島県卓球協会県北支部二代目会長に就任し、長年にわたり、本県卓球の発展に尽力し、これらの功績により福島県体育功労賞を受賞した。又、日本卓球協会より功労賞（金賞）を受賞するという榮譽に輝いた功労者である。

又、卓球一家として、長女文子、次女昭子、三女英子、長男金治の4人の子供を卓球選手として育て上げ、全日本の大会で輝かしい成績を挙げ、特に三女英子は、世界選手権大会に日本代表として出場し、優勝を果たした。

尚、故高松宮殿下とは卓球を通してのご高誼を賜り、幾度となく旅館「花月」に、ご宿泊の榮に浴した。

〈各種受賞者〉

年 度	氏 名	受賞名称
昭和25年度	後藤 寿二	福島県体育功労賞
昭和25年度	後藤 寿二	日本卓球協会功労賞（金賞）
昭和33年度	笹山 進	福島市体育功労賞
昭和40年度	笹山 進	福島県体育功労賞
昭和39年度	斎藤 正雄	福島市体育功労賞
昭和59年度	甚野 道雄	福島市体育協会優秀指導者賞
昭和62年度	甚野 道雄	福島県体育協会優秀指導者賞
平成3年	吉原 清隆	福島市体育協会優秀指導者賞
平成3年	菅野 平吉	福島県卓球協会協会優秀指導者賞
平成3年	吉原 清隆	福島県体育協会優秀指導者賞
平成3年	岸 ひろみ	福島市体育功労賞
平成4年	柴田 広道	福島市体育協会優秀指導者賞
平成4年	二木 康視	東北卓球協会功労賞
平成10年	三浦 勝美	文部大臣表彰

〈国際大会で活躍した選手〉

選手名	大 会	年 度	開催地	出場種目	成績	備 考
後藤 英子	第21回世界選手権大会	昭和29年	ロンドン	ダブルス	優 勝	福女出身
後藤 英子	国際卓球選手権大会	昭和29年	ドイツ	ミックスダブルス	優 勝	福女出身
渡辺恵美子	アジア卓球選手権大会	昭和45年	日本(名古屋)	ダブルス	第8位	成蹊出身
渡辺恵美子	アジア卓球選手権大会	昭和45年	日本(名古屋)	ミックスダブルス	第8位	成蹊出身

〈明治神宮大会で活躍した選手〉

回	年度	開催地	選手名	(所属)	出場種目	成績
10	昭和14年	東京都	田辺栄治郎	(東北配電)	男子シングルス	第4位

〈国民体育大会で活躍した選手〉

回	年度	開催地	選手名	(所属)	出場種目	成績
54	平成7年	福島県	伊藤恵美子	(千本松毛晒)	成年女子2部	第1位
54	平成7年	福島県	東條 由美	(福島市役所)	成年女子2部	第1位

〈全国大会で活躍した選手・チーム〉

年度	開催地	大会名	選手名	(所属・チーム)	出場種目	成績
昭和28年	函館市	全日本軟式卓球選手権大会	後藤英子	(福女出身)	女子単・混複	優勝
昭和28年	東京都	全日本卓球選手権大会	後藤英子	(福女出身)	混合複	優勝
昭和29年	東京都	全日本卓球選手権大会	後藤英子	(福女出身)	混合複	優勝
昭和44年	東京都	全日本社会人卓球選手権大会	渡辺恵美子	(成蹊女高出身)	女子単	優勝
平成2年	長野県	全日本クラブ卓球選手権大会	あづま卓球スポーツ少年団		女子4部	優勝
平成3年	千葉県	地球ジュニア卓球大会	遊佐充裕	(あづま卓球スポ少)	男子ホープスAクラス	優勝
平成3年	千葉県	地球ジュニア卓球大会	岡田晶子	(あづま卓球スポ少)	女子カデットAクラス	優勝
平成4年	福島県	全日本クラブ卓球選手権大会	福卓会		男子1部	優勝
平成5年	静岡県	第15回全国スポーツ少年団卓球交流大会	遊佐充裕	(あづま卓球スポ少)	男子個人戦	優勝
平成8年	福岡県	全日本クラブ卓球選手権大会	福卓会		男子1部	優勝

〈三浦卓球クラブ〉 —12年間のあゆみ—

年月	場所	大会名	成績	選手名
S・62・11	北九州	パンビ女子(小2以下)	優勝	高橋美貴江(平石小2)
		カブ女子(小4以下)	優勝	藤田 由希(北小4)
H・元・8	東京	全国ホープス卓球大会	優勝	根本 喜子(平石小5)
				藤田 小夜(北小2)
元・11	岐阜	全日本卓球選手権大会ホープス女子(小6以下)	優勝	藤田 由希(北小6)
元・12	ニューデリー	第4回アジアジュニア卓球選手権大会ホープス女子	優勝	藤田 由希(北小6)
2・9	旭川	全日本卓球選手権大会カデット女子(13才以下)	優勝	藤田 由希(松一中1)
3・5	千葉	地球ジュニアカデット女子	優勝	藤田 由希(松一中2)
3・7	長野	第10回全日本クラブ卓球選手権大会	優勝	高橋美貴江(平石小6)
				藤田 小夜(北小4)
4・8	盛岡	東北中学校卓球大会女子シングルス	優勝	藤田 由希(松一中3)
4・8	松本	全国中学校卓球大会女子シングルス	優勝	藤田 由希(松一中3)
4・9	姫路	全日本卓球選手権大会パンビ女子	優勝	今福 久美(岳下小2)
5・3	静岡焼津	全国スポーツ少年団卓球交流大会女子シングルス	優勝	藤田 由希(松一中3)
5・5	フランス	フランスユースオープン大会女子ダブルス	優勝	藤田 由希(安達高1)
5・6	喜多方	東北高校卓球選手権大会女子シングルス		

5・7	長岡	第12回全日本クラブ卓球選手権大会女子4部	優勝 藤田 由希 (安達高1)
			優勝 三浦卓球クラブA 藤田 由希 (安達高1) 高橋美貴江 (松二中2) 今福 久美 (岳下小3)
6・1	コペンハーゲン	デンマークジュニア・オープン女子シングルス	優勝 藤田 由希 (安達高1)
6・7	静岡	第13回全日本クラブ卓球選手権大会女子4部	優勝 三浦卓球クラブA 藤田 由希 (安達高2) 藤田 小夜 (松一中1) 今福 久美 (岳下小4)
7・6	仙台	東北高校卓球選手権大会女子ダブルス	優勝 藤田 由希 (安達高3)
			優勝 高橋美智子 (安達高3)
7・8	浜松	第14回全日本クラブ卓球選手権大会	優勝 高橋美貴江 (安達高1)
			(3年連続) (4回目) 藤田 小夜 (松一中2) 今福 久美 (岳下小5)
8・6	盛岡	東北高校卓球選手権大会女子シングルス	優勝 高橋美貴江 (安達高2)

(二本松卓球協会の組織及び活動状況等)

	氏名	大会月	大会名等
1. 会長	服部 保治	活動状況	年間の事業 (大会・行事・普及教室等)
2. 副会長	大藤 務	5月	安達地方小中学生卓球大会
	佐藤 茂	7月	市長杯争奪親善卓球大会
3. 理事長	丹野 光一	9月	市民体育祭参加卓球大会
4. 事務局長	丹野 光一	10月	二本松の菊人形杯卓球大会
5. 幹事等	菅谷 孝夫	2月	安達地方卓球選手権大会
	川島 芳夫	11月	中体連新人戦県北大会

年間の予算額 (160万)

事務局所在地 (連絡先) 二本松市表二丁目871-10 丹野 TEL 0243-22-2856

その他 (東北・全国で実績を残した指導者・選手)

指導者	選手
三浦 勝美	藤田 由希
大藤 務	高橋 美貴江
武田 勇治	高橋 美智子
高橋 庄一	藤田 小夜
桑原 要勝	西山 亜希子
上石 健一	今福 久美
渡辺 悦子	今福 豊

第2節 福島県卓球協会県中支部

支部長 宗 像 次 男

〈郡山市の卓球〉

1 組 織

郡山市の歴史をひもといた時、昭和30年代までは、規模の小さい組織であり、大会も少なかった。昭和40年代に、佐久間直が理事長職に就いた時から、本格的な活動が始まったと言える。その時代の会長は、橋本栄一であった。会長は、その後、宗像次男に代わり、現在に至っている。理事長は、深谷秀三、那須喜明、荒井孝芳と続き現在に至っている。

平成10年の組織は以下のとおりである。

顧問	宇賀神喜嗣	松崎 俊一	佐久間 直	壁谷 之夫	
会長	宗像 次男				
副会長	深谷 秀三	猪狩 修一			
理事長	荒井 孝芳				
副理事長	荒木 久勝	向井 隆一			
会計	大和田元一				
監査	国分 利雄	影山 澄			
理事	那須 喜明	根本 孝司	佐藤 敏夫	熊谷 勝明	菊地 敏美
	渡辺 和博	飛田 徹	玉木志代子	荒井 祐子	太田 範子
	寺西 礼子	大竹 政行	相原 健	石橋 勉	柳沼 清正
	深谷 純子	今福 麻美	斎藤 光則	根本 裕子	

2 郡山市独自の卓球大会

郡山市卓球協会は、県大会につながらない協会独自の大会を多数行っている。

(1) 郡山卓球選手権大会

この大会は、昭和45年頃に第1回大会が行われ、年3回ペースで大会を実施し、平成11年4月に第82回大会を開催した。

(2) 中通り卓球選手権大会

中通りの中高校生の競技力向上を目指して昭和44年に始められた。1月の第1日曜日を開催のめどにしている。31回を数えた。

(3) 南東北卓球選手権大会

郡山市の卓球発展に尽力された宇賀神喜嗣、宗像次男の両名が高校教諭を退官されるのを記念して創設された。現在は、小中学生の団体戦を3月末の土日を利用して開催している。平成10年3月で17回を数える。

(4) NHK杯卓球フェアダブルス大会

全国教職員卓球選手権大会の開催をきっかけにNHKと共催の下にダブルス大会を実施9年になる。

(5) バタフライダブルス大会

㈱タスマスの協賛をいただき、ダブルスの普及を目指して毎年12月に開催し9年目になる。

(6) サンフレッシュ郡山卓球選手権大会

勤労者の施設、サンフレッシュ郡山が開館したのを記念し、サンフレッシュ郡山体育館で一般と中学生の団体戦を実施している。

(7) 郡山市民体育祭卓球競技

市民体育祭の一環として、10月の土日2日間をかけてママさんの部、ラージボールの部を始め

すべての市民が参加できるようにしている。

3 全国大会の開催

郡山市で特筆されるのは、全国大会の開催である。郡山総合体育館という東京体育館のフロア面積に匹敵する施設と役員、審判の動員ができるという組織が確立され、福島県には例を見ない回数の全国大会を開催している。

○第13回全日本社会人卓球選手権大会の開催

昭和54年9月21日～23日 郡山総合体育館

昭和49年に郡山総合体育館が竣工し、その施設のすばらしさに圧倒されていた当時、体育館長との雑談に卓球も全国大会を開催してはどうかとの勧めもあり、卓球協会にも機運が盛り上がり、開催の運びとなった。県卓球協会の事務局長だった松崎俊一、郡山市卓球協会の理事長だった那須喜明を中心に、大会の準備とともに資金集めに奔走した。福島県にとっては久しぶりの全国大会とあって、県卓協あげての準備のかいもあり、マスコミも大きく取り上げ、大成功に終わった。

○第11回全国高等学校選抜卓球大会の開催

昭和59年3月27日～29日 郡山総合体育館

高体連主催の大会であったが、当時の大橋高体連委員長を中心に、県中地区の高等学校卓球部の顧問及び卓球部員が主力となり運営をした。なお、開催権を代表して、男子は喜多方工業高校、女子は喜多方女子高校が出場した。

○全日本卓球選手権大会（少年の部）の開催

昭和63年11月19日～20日 郡山総合体育館

昭和61年から少年の部は、東京の全日本卓球選手権大会から分離され地方開催となり、三重県伊勢市で開催された。これに娘が出場し引率した常任理事の深谷秀三は、その観客の多さに驚いた。監督や応援の父母で観覧席が満杯なのである。小中学生の励みにもなり、地元開催で選手が多く出場できるこの大会の福島県開催を強く要望した。その結果、2年後の大会誘致に成功した。先程の深谷と理事長の荒井孝芳を中心に準備、運営に尽力した。全国から多数の出場者が来県。盛り上がりの多い大会になった。

○第35回全日本教職員卓球選手権大会の開催

平成2年8月5日～8日 郡山総合体育館

少年の部の大会開催の2年後の、教職員の全国大会が開催された。教職員の全国大会は、インターハイの全国大会を実施する近県で行うことが原則になっている。平成2年のインターハイは、宮城県で実施されるため、候補地は、岩手、山形、福島の3県であった。決め手は、同じ日程で開催される仙台七夕祭りに行きやすいところということになり、福島県に決定したいきさつがある。伊東守信県教職員卓球協会会長のもと理事長の菊地敏美、高体連委員長の渡部長二、郡山市卓球協会理事長の荒井孝芳、それに深谷秀三が中心となり、大会の準備運営に当たった。郡山会館での前夜祭も思い出に残る。

○第11回全日本クラブ卓球選手権大会の開催

平成4年7月31日～8月2日 郡山総合体育館

2年ごとに3つの全国大会を引き受けた郡山市にとって、また2年後に全国大会を開催するとは夢にも思わなかった。全日本クラブ卓球選手権大会は規模も拡大し、大会を開催する場所が決定せず、大会中止やむなしの声が日本卓球協会からでていた。福島県はクラブ大会への出場チームも多く、平成7年に国体が開催されることから、どうしても引き受けてほしいと懇願された。このため、引き受ける条件として、国体開催の県南地区と合同での運営なら引き受けることにした。大会準備は、理事長の荒井孝芳を中心に影山澄、荒井祐子、深谷秀三が担当した。会場は郡山総合体育館が県中地区、郡山西部体育館が県南地区が担当した。開会式は、郡山市の花火大会の日であり、前夜祭は花火を見物しながら行った。なお、女子4部で地元の富久山卓球クラブが初優勝した。

4 選手の活躍

県中地区の選手の活躍は、それぞれの時代の名監督によってすばらしいものがある。それぞれの種別の活躍をたどってみたい。

(1) 小学生

小学生の県、全国レベルの大会は、少年の部の小学生以下の部、団体のホープス大会、スポーツ少年団の県大会、全国交流大会があげられる。小学生で活動があるのは、安積地区、小原田地区、大槻地区などである。広域クラブとして活動しているのが富久山卓球クラブ、本宮卓球クラブがある。中でも、富久山卓球クラブは、県大会、全国大会でも数多くの入賞をしている。全国スポーツ少年団卓球交流大会では、小学生のみの団体戦になってから7年目になるが、そのうち福島県を代表して6度の出場を数え、平成8年の伊勢市での18回大会では、渡辺芳博、大和田直樹、柏原裕治、五十川英美、高橋祥絵のメンバーで見事3位に入賞している。また、平成10年度の北日本ホープス卓球大会では、櫻村健太、松岡達也、根本岳、木村裕樹のメンバーで3位に入賞した。

(2) 中学生

中学生は、中体連の県、東北、全国大会を中心に、活躍した選手を紹介していく。中体連県大会は、平成10年度で41回を数える。男子団体は、昭和44年の郡山五中の優勝がただ1回である。それまで、郡山一中、郡山二中、郡山三中、日和田中などがベスト4に入賞しているものの優勝1回は少し寂しい。女子団体は、昭和39年の船引中が壁谷之夫監督の指導により優勝したのが輝いている。郡山ザベリオ学園中が荒木久勝の指導の下に初入賞したのが昭和53年である。そして、初優勝が10年後の昭和63年であり、現在まで5回の優勝を数える名門校に名を連ねるようになった。個人戦では、男子は、個人戦が加えられた昭和36年の第1回大会で鈴木秀治（郡山三中）が優勝して以来、昭和60年の第28回大会で優勝した深谷亮幸（行健中）の2人しかいない。女子も、昭和62年、63年の連続優勝の深谷純子（ザベリオ中）と平成7年第38回大会の玉木尚子（行健中）の2人を数えるだけである。

東北大会は、昭和63年に深谷純子がシングルスに優勝、そして、10年後の平成8年にザベリオ中が優勝したのが歴史にあるのみである。全国大会になると、道はもっと厳しくなるが、ザベリオ中が団体に4回出場しているのが記録に残っている。個人戦は、深谷純子、玉木尚子、五十川英美（ザベリオ中）の3名が、ベスト16にすすんだのが最高の成績である。

全日本卓球選手権大会（カデットの部）では、平成9年に女子ダブルスで五十川英美・高橋祥絵組（富久山卓球クラブ）が準優勝。全国スポーツ少年団卓球交流大会では、平成5年第15回大会、中学生男子シングルスで、渡辺和幸（富久山卓球スポ少）が準優勝、平成8年第18回大会で、渡辺隆司と今福豊（いずれも富久山卓球スポ少）が決勝を争い、渡辺隆司が優勝した。そして、渡辺三兄弟の三番目の渡辺芳博（富久山卓球スポ少）が、平成11年第21回大会でシングルスに優勝するという快挙を成し遂げている。

(3) 高校生

高校生も、高体連の県、東北、全国大会を中心に、活躍した選手を紹介していく。男子学校対抗は、昭和33年、昭和42年、昭和47年の3回に渡って郡山商業高校の優勝が光る。特に、昭和47年は、ダブルスで佐藤光昭・横山俊秀組、シングルスで佐藤光昭が優勝し三冠王を達成した。当時の根本孝司コーチの指導が記憶に残る。その23年後の平成7年に熊谷勝明が率いる帝京安積高が初優勝し、平成11年まで5年連続優勝している。女子学校対抗は、宇賀神喜嗣が指導する郡山女子高が、昭和45年に初優勝し、その後校名を郡山女子高から郡山東高に変えて2年目の平成11年2度目の優勝を飾った。平成3年には尚志高も優勝している。男子シングルスは、前述の佐藤光昭の次は、深谷亮幸（安積高）が昭和63年に、平成10年に今福豊（帝京安積高）が三冠王となり、平成11年に佐藤久也（帝京安積高）が郡山地区からの4人目のチャンピオンになった。女子シングルスは、昭和38年に吉田マサ子（郡山女子高）、昭和39年に三瓶利子（郡山女子校）、昭和45年に佐藤ふみ子（郡山女子高）が優勝、その20年後に深谷純子（安積女子高）が平成2年、

3年と連続優勝し、平成4年、5年は、菊地弓子（尚志高）も連続優勝した。平成10年には玉木尚子（郡山東高）、平成11年には五十川美美（安積女子高）が1年生ながら優勝している。男子ダブルスは、昭和39年に佐藤英幸・坂本正則組（郡山商業高）昭和47年に佐藤光昭・横山俊秀組（郡山商業高）が勝っている。昭和61年には、ノーシードの壁谷卓・黒森伸夫組（安積高）が優勝しあっといわせた。平成6年から10年までの5年間は帝京安積高ペアの優勝で、渡辺兄弟が5年連続で優勝にかかわっている。平成6年渡辺和幸・中島仁組、平成7年渡辺和幸・横田敬春組、平成8年横田敬春・渡辺隆司組、平成9年横田敬春・渡辺隆司組、平成10年渡辺隆司・今福豊組となっている。女子ダブルスは、昭和47年に太田範子・増田淳子組（安積女子高）が郡山勢としては初めての優勝、ついで、昭和55年に網田雄治が指導する日本女子工業高の安藤ひとみ・志賀豊子組が優勝する。平成7年には根本恵美子・山木成愛組（郡山女子高）、平成10年に玉木尚子・荒井沙織組（郡山東高）、平成11年には大和田ゆかり・美野佐知子組（郡山東高）が優勝している。

東北大会では、昭和24年の第3回大会で郡山女子高が学校対抗で優勝、女子ダブルスは秋澤静江・大原芳枝、女子シングルスでは、秋澤静江（郡山女高）が優勝している。男子は、平成8年に帝京安積高が初優勝し、ダブルスでは同じく横田敬春・渡辺隆司組が優勝している。全国大会は、平成10年に帝京安積高が学校対抗で3位、ダブルスで渡辺隆司・今福豊組が3位、シングルスで渡辺隆司、今福豊がともにベスト8に入賞という快挙を成し遂げている。平成7年のふくしま国体の少年男子では渡辺和幸が3位、根本恵美子が少年女子でベスト8に入賞している。

(4) 一般

大学生、一般の活躍については、県総体での活躍を中心にあげていく。一般硬式男子では昭和45年に深谷秀三が優勝したのが初めてで、昭和47年と49年に中村豊が優勝したのみである。一般硬式女子は昭和29年に秋澤静江の次は、昭和60年と昭和62年に増田淳子が、そして、平成4年、平成5年、平成7年に深谷純子が優勝している。壮年男子は、昭和40年と昭和43年に山本栄三、昭和47年と昭和49年に大野敬が優勝している。壮年女子は、昭和43年から3年連続西本和子、昭和46年と平成10年に玉木志代子が優勝。一般男子2部では、平成7年に相原健、一般女子2部では、平成5年、平成8年、平成9年、平成10年と根本裕子が4回優勝を飾っている。教職員の高橋秀三が19回優勝している。平成7年、8年の国体では、深谷亮幸が2度にわたり福島県代表としてベスト8に入賞している。

(5) クラブ

郡山市には、郡山卓球クラブ、LLC、石渡会、郡山市役所、ママさんのKYレディス、コスモスクラブ、桑野クラブ、安積クラブなどが活躍している。中でも富久山卓球クラブの全国大会制覇について紹介する。全日本クラブ卓球選手権大会での初優勝は平成2年の第9回大会の女子4部は、あづま卓球スポ少で出場しているが、陣容は富久山卓球クラブの深谷純子と山木静香が主力メンバーであった。その後、第11回の地元郡山大会では、富久山卓球クラブという名称で出場した最初の大会である。女子4部は、菊地弓子、今福愛、荒井沙織のメンバーで激戦を制して初優勝を飾った。平成9年は、荒井沙織、五十川美美、柏原亜紀で2度目の優勝を飾っている。一方男子の4部では、初優勝が平成6年の静岡大会で、渡辺和幸、渡辺隆司、渡辺芳博の三兄弟で初優勝しており、2回目は、平成10年長野県のエムウェーブでの会場で、渡辺芳博、大和田直樹、松岡達也のメンバーで優勝し、今日にいたっている。

〈田村郡船引町でのこと〉

船引町卓球協会会長 壁谷之夫

私が教師になって、始めて赴任したのが、移中学校、卓球台は、宿直室のわきに、雨ざらしだった。とてもがっかりしたのを今も脳裏にひらめく。この学校に2年、次に瀬川中に8年、その次に船引中、何とか生徒を強くしたい、それには生徒に多くの試合を経験させたい、郡山市の大会には金がかかるし、レベルが違う。そこで協会を作ることを考え、知人友人、町内の中学の卓球の顧問を集めて、船引町卓球協会を作った。我が町には柔剣道、野球の3協会しかなかったので、四番目になり、町からも補助金を少し戴けることになり、早速協会主催の大会を開催したいが、会場と、卓球台を運ぶのは大変だった。当時は卓球台を運ぶのはリヤカーであるから、年3回の予定だが1回の開催がやっとだった。協会が昭和37年9月に発足し、10年位過ぎ大部各学校にも、台が購入され、大会を開催するのにも楽になった。

この大会があり、その恩恵を受けた選手も大部あるようだ。

田村郡卓球協会 ー設立ー 会長 壁谷之夫

船引町にやっと協会が出来て大部過ぎるが、田村郡の卓球レベルを上げる為、郡の協会を作る話を各町村の知人に話をしたところ、皆さん心よく集まってくれた。船引卓球協会ができて約20年になるのである。

◎田村郡は、1村、6町の7ヶ町村です。

都路村・小野町・滝根町・大越町・常葉町・船引町・三春町

○昭和55年3月1日、三春町商工会館で、田村郡卓球協会の設立総会を開催した。

○田村郡卓球協会の設立記念・第一回田村郡親善卓球大会を大越町体育館で開催する。

昭和55年3月9日（日）

成績	男子団体	1位	滝根	2位	船引
	女子団体	1位	小野	2位	大越

◎船引町卓球協会の活動状況

船引町は一町・七ヶ村が合併して出来た町で、現在県内では二番目の大きさの町なので、中学校が5校、小学校が13校あり、年に4回の大会を開催している。内容は、小学の部、中学の部、高校の部、一般の部に分けて実施している。

特に力を入れているのは、毎年2月の最後の日曜日には、新春卓球大会と卓球教室を開催している。日程は、最初に、簡単なルールの説明、中学、一般には日本卓球ルール細則を中心に新ルールの説明、続いて小、中学に分けて基本の尖技の指導を行ってから、模範試合を見せて、11時頃から普通の試合をさせるのである。

この卓球教室も本年で21回目になった。

勿論、この卓球教室は、船引だけでは出来ない所以、県中の役員、特に、深谷先生、荒井県中理事長、ザベリオ中の荒木先生、その他の役員等の応援を得て、実施しています。

ただこの2月は、とても寒くて、指導していただく方に申し訳なく思っています。でもその、おかげで、田村郡のレベルも大部良くなったと、私は思っています。そしてこの大会は、県中の行事にも入れて貰っているのです。

◎田村郡卓球協会の活動

田村郡の協会は、今年で20年になったわけで毎年の行事も、年に3回、春に、社会人卓球大会、夏には、県民スポーツ県中地域大会の予選大会、冬に、町村対抗親善卓球大会の3回を行って来たが、どうも若い人が居なくて、年々参加人数が少なくなっているのが、残念である。

そこで、魅力的なものはないかと考え、福島国体記念、田村郡卓球選手権大会を11月に開催したところ、めずらしくてか、第3回迄は大変良かったが、昨年は大部参加者が少なかった。本年、5回大会

はどうか？

又、冬に行う町村對抗親善卓球大会は、個人戦のシングルス無くし、ダブルスにした。しかもそれをミックスにし、しかも同町村では組ませないで、別町村の男女が組むようにした。これは最初の年は嫌がったが、最近は、和気あいあいでもって好評を得ています。

そして、このミックスの試合で、優勝した組は永久に組めない、と云う規則を作ったので皆喜んでこの大会に出るようになりました。又、試合後、全員で懇親会、これがとても盛り上がりとても楽しいです。

なお、大会は、すべて町村持ち廻りなので懇親会の会場も、毎年違うのも良いようです。

◎船引町卓球協会の中で、新春卓球大会と卓球教室には、田村郡内中学校（16校）にも案内を出してほしいとの要望があり、全校に出し、大会にも参加しているので、田村郡卓球協会に入れるのは良いのかも知れません。

◎福島国体記念、田村郡卓球選手権大会は

・小学の部、男、女・一般の部（中学生以上）の二部門で実施しています。最初の第1回大会の時は、一般の人がチャンピオンになりましたが、2回大会は、中学生男子がチャンピオンになりました。

◎どの町村も、卓球人口を増やそうと、各大会を町村持ち廻りにしているのですが、やっぱり差ができて困っています。

郡の協会が発足した当時は、小野町の女性は大変多かったのですが、7年前あたりから大会に出場しなくなり、県民スポーツの予選にも出場しないありさまです。

又、都路も出なかったのが、渡辺幸男が、役場に就職したので、彼と話をし、都路で大会を開催したところ、都路から2チームが出場し大盛会だったし、今後も良いなと思っていた所、次の年から出場しなくなりました。

私も、船引の協会長、約40年、田村郡の協会長、20年、本当に人集めのむずかしさを、毎年痛感しています。

でも、私が止めたら誰がやる、といつも考え、老兵にムチ打ち、頑張っています。

これからも頑張るつもりです。

◎田村郡卓球協会に、自分の町村の協会の為に、選手や役員として活躍している人は、次の通りです。

○三春町 佐久間眞、黒羽キミエ、大内秀夫、影山節子

○船引町 村越崇行、佐藤安次郎、大山巧（郡事務局）林守、佐久間好浩、斎藤武、佐藤アヤ子、飛田和広、小林文子、菊地久子

○常葉町 浦山正一、渡辺信一、吉田哲夫

○大越町 松崎一男

○滝根町 渡辺行雄、高橋道隆、猪狩精一

○田村郡出身者で、全国大会に出場した者

渡辺 幸男	林 守	斎藤 博	佐藤 好則	壁谷 卓
佐藤 洋子	小林 文子			

◎渡辺 幸男（S32.7.19生） 都路二中→田村高校

昭和48年 全日本ジュニア県予選 シングルス3位（高校1年）
県高校新人戦 シングルス1位（高校1年）

昭和49年 高校総体予選 シングルス1位（高校2年）
県総合体育大会 シングルス2位（高校2年）
全日本ジュニア県予選 シングルス2位（高校2年）
県高校新人戦 シングルス2位（高校2年）

昭和50年 県総合体育大会 シングルス3位（高校3年）

◎林 守（S32.9.22生） 船引中→船引高校

◎斎藤 博（S32.8.14生） 瀬川中→船引高校

昭和50年	県総合体育大会	ダブルス 2位 (高校3年)	
◎佐藤好則 (S34.2.11生)	船引中一船引高校		
昭和51年	高校総体県予選	シングルス 3位 (高校3年)	
	県総合体育大会	シングルス 3位 (高校3年)	
昭和53年	全日本軟式 (高松市)	シングルス・混合ダブルス出場	1回戦敗退
昭和54年	全日本軟式 (秋田市)	シングルス・ダブルス出場	1回戦敗退
	全日本県予選	ダブルス 2位	
昭和55年	全国社会人選手権 (郡山市)	ダブルス出場	1回戦敗退
◎壁谷卓	船引中一安積高		
昭和61年	県高校総体予選	ダブルス優勝一山口の全国大会に出場	
◎佐藤洋子	瀬川中一田村高		
◎小林文子	船引中一船引高、卒業して神奈川県に就職、神奈川県代表で国体に出場		

第3節 福島県卓球協会県南支部

〈須賀川卓球協会のあゆみ〉

支部長 滝沢昌昭

1. 須賀川卓球協会設立について

戦前戦後の社会情勢の不安など混乱期が長く続いたため、現須賀川卓球協会の前身であった卓球愛好者の活動も一時中断されており有名無実の状態であった。昭和23年頃から中学校、高等学校などに他の競技団体にさきがけ卓球部が創設され、年を追う毎に活発な活動状況がみられるようになった。こうした状況のなかにあって当時須賀川市立第一中学校の教諭であった高久田大一郎氏 (故人) 並びに福島県卓球協会の役員を努められ、戦前福島県軟式卓球選手権保持者であった井上安正氏 (故人) が、昭和24年に飯坂町から須賀川に移住されたのを機会に須賀川卓球愛好者をはじめ、中学生、高校生の指導に連日あたられており卓球関係者から感謝されたものである。

卓球熱が盛んになるに伴い関係者の中で須賀川卓球協会設立の気運が非常に強くなってきたのを契機に高久田大一郎、井上安正、安藤博、加藤秀男、及川邦夫、滝沢昌昭の各氏が発起人となり昭和27年3月須賀川卓球協会設立の趣旨、事業計画、予算等について予め賛同を得ていた関係団体に示し、了承を得て須賀川卓球協会が正式に発足し今日の須賀川卓球協会の基礎づくりが出来たものである。主な決定事項は次のとおりである。

(1) 役員 会長 高久田大一郎 副会長 及川邦夫 庶務会計 滝沢昌昭

(2) 登録料 一チーム年300円

(3) 須賀川卓球協会加盟団体

須賀川町役場	林精器工場	トキワ印刷工場	大内化学工場	岩瀬地方事務所
須賀川保健所	山本電気工場	東邦銀行	笠原製糸工場	中外製薬
須賀川専売公社	須賀川高校	岩瀬農業高校	須賀川郵便局	

(4) 事業計画

(イ) 練習日の設定

毎週日曜日を練習日とし、会場は須賀川高校、岩瀬農業高校、専売公社須賀川工場等の持ち廻りとする。

(ロ) 各種卓球大会の支援

県大会をはじめ労働安全衛生卓球大会並びに薬業スポーツ卓球大会の運営全般にわたり支援する。特に須賀川卓球協会発足後間もなく福島県卓球協会と井上安正氏の協議により昭和27年4月22日、福島県軟式卓球選手権大会が須賀川で開催されることに決まり、運営面等に経験豊かな井

上安正氏が須賀川卓球協会会員をはじめ青年会（当時）を総動員し、陣頭指揮にあたり盛会裡に終了することができ、今後の各種大会の開催に大きな自信となった。

須賀川卓球協会発足後、初の県大会であり井上安正氏の英断、行動力には、目をみはるものがあり関係者一同敬服の念を強くしたものである。

昨今は須賀川卓球協会顧問であり、福島県卓球協会副会長である平石家治氏が昭和55年福島県卓球協会理事長に就任以、降福島県卓球協会の事務局が須賀川市に移り事務局長伊東守信、会計渡部信行、庶務薄井充良氏等事務局体制となり、第50回福島国体卓球競技会をはじめ東北大会、県大会等数多くの大会を再三にわたり開催し、活躍されていることをみると大会の規模、施設、技術更には予算面等でも隔世の感が強く感無量である。

(ハ) 牡丹杯県下職域卓球大会

須賀川市が誇る東洋一の牡丹園の共催行事の一環として開催されたものであり、県内各地から選手多数が参加され団体並びに個人戦に熱戦を展開する大会である。

第1回開催が昭和32年であり、本年度で43回を迎えた。

(ニ) 高久田、井上杯卓球大会

須賀川卓球協会の設立並びに卓球の普及更には小・中・高の選手の強化育成に尽力された高久田大一郎、井上安正両氏の功績を後世に残すため、昭和53年から開催されている大会であり本年度で21回の開催である。本大会で育った代表的な選手では、平成9・10年の2年にわたり全日本軟式卓球選手権大会で2年連続優勝を飾った小垣浩選手をはじめ国体など各種大会で活躍した平石秀樹、秋山月彦、山本健史選手などである。

(ホ) 須賀川市民体育祭卓球大会

毎年10月10日の体育の日を記念し、市民である小学生、中学生、高校生、社会人が参加し開催しており本年度で32回の開催である。

(ハ) 卓球講習会の開催

須賀川卓球協会設立後間もない昭和27年井上安正氏の奔走により当時日本卓球協会副会長並びに早稲田大学卓球部監督であった野村堯氏更には、昭和24年インドのボンベイで開催された世界選手権大会に出場ダブルスで優勝した林忠明氏など知名人を招聘し県南地区の高校生を対象として卓球技術の向上、選手の強化育成などにご指導をいただいたものである。

昭和60年頃からは、ふくしま国体での地元選手の育成強化が急務となり世界チャンピオンであった中国の郭躍華、曹燕華選手、スウェーデンのワルドナー選手をはじめ、世界選手権大会、女子監督であった水村治男氏等を再三にわたり招聘し選手の強化育成に努めた。

2. 須賀川市営卓球場の開設

昭和54年4月須賀川市の中心地である釈迦堂川近辺に、須賀川卓球協会長年の懸案であった待望の市民卓球場がオープンした。県内初の市民卓球場開設に卓球関係者の喜びは大きなものであった。当時の澤田三郎市長はオープンに際し、卓球をともし健全な体力と心を養い、併せて卓球技術の向上に努めてほしいと励ましの挨拶をされた。

現在は老朽化のため新築され「ふれあいセンター」と名称替えをし、従前と同様利用されている。卓球台8台 使用料無料 使用時間午前9時～午後9時迄

3. 平石家治氏の財団法人日本卓球協会理事就任

福島県卓球協会理事長として長い間県卓球協会の運営並びに卓球競技の底辺拡大、競技力の向上更には第一戦の選手として国体をはじめ数多くの大会に出場するなどその活躍はめざましいものがある。これらの活躍が認められ昭和61年東北地区を代表しての日本卓球協会理事に就任された。

日本卓球協会理事の就任は福島県にとってはじめての快挙である。以後5期10年間継続し平成6年にはアメリカオープン卓球大会の日本選手団の団長として派遣された。

第50回ふくしま国体卓球競技の地元須賀川市開催の誘致に立候補している最中でもあり国体誘致に一段と拍車がかかり、大きな力になるものと須賀川市体育協会をはじめ関係者一同大変意を強くした

ものである。

後日、須賀川市卓球協会主催により須賀川市体育協会長や須賀川市教育長、福島県卓球協会長など関係者 200 余名が出席し盛大な祝賀会を催し、今後の活躍を祈念した。

4. 第 50 回ふくしま国体卓球競技会

平成 7 年 10 月 14 日須賀川市が誇る伝統行事日本三大火祭りのひとつである松明あかしで全国各地から参加された選手、役員の皆様を心から歓迎し、半世紀に一度のスポーツ祭典である第 50 回ふくしま国体卓球競技会が新装なった須賀川アリーナを会場に、10 月 14 日から 19 日迄の 6 日間にわたり熱戦の火蓋がきられ開幕された。

翌 15 日には天皇、皇后両陛下の行幸啓があり、両陛下をお迎えしようと早朝より多くの人達が沿道並びに須賀川アリーナ周辺をうめつくし、二重三重の人波であふれ心から歓迎申しあげた。

競技会 5 日目の 18 日、翌 19 日には須賀川市出身の小塩浩選手（須賀川信金）、横山広昭監督（叶商会）、平石秀樹コーチ（須賀川信金）、のほか富岡成一選手（阿部商事）、川村公一（日産いわき）が出場する成年男子 2 部では、応援席が連日満席となり市民総ぐるみの応援が会場全体に響きわたり、選手の勢いも加速され一段と盛りあがりを見せた。

試合は小塩浩選手などの再三にわたり美技とファイトにより予選リーグ（A グループ）を見事 4 戦全勝で飾り決勝トーナメントに進出、決勝戦では強豪千葉県と対戦し 1 対 3 で惜敗はしたが準優勝の好成績を残すことができ、郷土あげての声援と期待に応えることができた。成年女子 2 部での選手の活躍も目をみはるものがあり予選リーグ（B グループ）を 3 戦全勝で決勝トーナメントに進出、神奈川県との決勝戦でも 3 対 1 で見事優勝の栄冠を勝ちとり、成年男子（2 部）とともに総合成績 2 位の好成績をおさめ天皇杯獲得の原動力となり、郷土の期待と応援に応えてくれた活躍に観衆のおしめない拍手と賛辞が印象的であった。

卓球競技会が興奮とさまざまな感動と思い出を残し半世紀に一度の大イベントが平成 7 年 10 月 19 日成功裡に終了し閉幕した。

長い間競技力の向上並びに運営全般に尽力された福島県卓球協会並びに須賀川卓球協会をはじめ関係者の真摯の努力の積み重ねが実を結んだものであり、改めて深く敬意と感謝を申し上げます。

今後とも第 50 回ふくしま国体でみせた好成績を持続させるため、引き続き競技力の向上に全力を傾注していただくことを念願するものであります。

【歴代須賀川卓球協会役員名】

年度	会長	副会長	理事長	事務局長	会計
昭 27・4～ 34・3	高久田 大一郎	及川 邦夫		滝沢 昌昭	滝沢 昌昭
34・4～ 52・3	坂井 金一	及川 邦夫		滝沢 昌昭	滝沢 昌昭
52・4～ 56・3	及川 邦夫	滝沢 昌昭	平石 家治	薄井 充良	
56・4～平 2・3	滝沢 昌昭	平石 家治	横山 広昭	薄井 充良	今泉 一二
		渡部 信行			
平 2・4～7・3	櫻村 義照	平石 家治	伊藤 平男	長場 壮夫	今泉 一二
		横山 広昭			
		渡部 信行			
		薄井 充良			
平 7・4～現在	櫻村 義照	渡部 信行	今泉 一二	長場 壮夫	平石 秀樹
		薄井 充良			

〈白河市卓球協会のあゆみ〉

会長 鈴木理平

昭和 32 年に戦後活躍された方々を中心として、白河卓球協会が設立されました。日本の卓球界の黄金期の始まりであり、地方では草創期の時代でもありました。当時、大会を開くたびに企業から卓球

台を借り、リヤカーで会場まで運び、その日のうちに返却すると云う大変苦勞の多い話を先輩から聞かされました。昨今の施設の充実ぶりを思えば、まさに歴史の重みを感じる次第です。その苦勞を共にし、灯をともし続けたのが現会長であります。創立以来七代目でもあります。組織の拡充を考えた時、施設の充実、環境整備をめきにしては語ることは出来ません。25年前、白河クラブを結成し学校の体育館を借り細々と練習をした事が懐かしく思われます。昭和50年代に入り、白河地方にも企業進出が相次ぎ補助事業として市民体育館が3館出来ました。色々な不便を感じて練習していた私たちにとって大変嬉しく、この事が現在の出発点になった様です。それ以来、町内会、地域の愛好会、企業のクラブ等が出来始め連携をとりながら仲間作りを行ってきました。現在では独自の大会を含めたくさんの行事があり、毎月何かはある、と云った状況です。今後各部門の指導者をどう育成するか、又生涯スポーツとしての卓球と競技スポーツとしての卓球のバランスをどうとり活動するか、課題は多くあります。

○白河市卓球協会役員名簿

団体名 白河市卓球協会 結成年月日 S 33. 4. 1

事務局または連絡先 白河市中田244-4 (24-0845) 事務局長 入谷みちこ

顧問兼相談役	成井 英夫	顧問	平原 武男	会長	鈴木 理平	副会長	北村 武宣
副会長	入谷みちこ	理事長	堀田 賢治	理事	田中 広美	理事	川井 彰一
理事	志賀 芳雄	理事	前川 賢二	理事	野木 良一	理事	徳田 政之
理事	青木 豊	理事	我妻 健二	理事	佐藤 哲夫	監査	根本 利雄

〈石川町卓球協会のあゆみ〉

会長 荒 明 健 二

(1) 石川町卓球協会 昭和40年4月1日設立

(2) 主な役員

会長 荒明 健二 副会長 鈴木 規之 事務局長 吉田 好次 会計 小川 太
監事 矢内 秀和 監事 登坂 大輔

(3) 活動状況

年間の事業としては、石川町体育協会に加盟し、毎週水曜日の夜7時から9時までの2時間、町体育館にて中学生、高校生、一般社会人の会員を中心に技術指導しながら、合同練習を行っている。

協会独自の大会としては、毎年3月上旬に、石川郡、東白川郡内の中学生、高校生、一般社会人を対象とした東石卓球選手権大会を開催し、卓球人口の増加を図っている。平成10年度は3月7日(日)に学校法人石川高等学校の体育館を会場に第17回目の東石大会を行い、男女合わせて130名の参加で盛況だった。

この外には県内で開催される各種大会——軟式大会、牡丹杯職域大会、社会人大会、県総体、全日本軟式大会、菊人形杯、中通り大会、井上、高久田杯、南東北選手権大会と数多くの県大会に出場し好成績をあげている。

なかでも鈴木規之副会長は練習日には欠かさず後輩の指導にあたるかたわら、全日本大会に数多く県代表選手として出場し、活躍中である。又、荒明健二会長もかつては同じく、全日本軟式大会に3度、県代表選手として、出場歴のあるベテランでもある。67才になった現在は、硬式卓球からラージボールに転身して60才以上のラージ愛好者の指導にあたっている。荒明会長、鈴木副会長に次ぐ吉田好次事務局長、小川太会計、矢内秀和、登坂大輔両監事の若手選手の台頭も目ざましく、石川町卓球協会を支えている根っからの卓球人である。

(4) 年間予算額 208,000円

役員数 6名

(5) 事務局所在地(連絡先)

石川町字下泉153の2

〈古殿中学校卓球部OB会の活動〉

会長 鈴木 誠一

- (1) 正式名称 古殿中学校卓球部OB会
- (2) 主な役員 会長 鈴木誠一 副会長 曾我部恭司 事務局 矢内 伸一
- (3) 活動状況
古殿小中学生卓球大会開催（昭和53年より開催し今年で22回目）
古殿卓球スポーツ少年団の技術指導
- (4) 年間予算
OB会としての予算は無し。
- (5) 事務局所在地
〒963 - 8305 福島県石川郡古殿町竹貫字竹貫127番地 矢内 伸一 電話0247 - 53 - 2854
- (6) 活動状況
毎年2月の第3日曜日に古殿小中学生卓球大会を開催しており、今年で22回になりました。古殿町教育委員会、卓球スポーツ少年団父兄会、そのほかたくさんの方にご協力をいただきながら大会を開催しております。
また、卓球スポーツ少年団の技術指導を行っております。現在は古殿町の小中学生をはじめ、いわき市石住小中学校の生徒を中心に活動を行っております。
- (7) 古殿町の卓球のあゆみ
古殿町の卓球の始まりは昭和51年4月に当時、古殿中学校に赴任してこられた、故本郷義信先生が中心となり、スタートいたしました。それまでは県大会さえ出場できなかったチームを翌年までには、優勝を狙えるチームに育てあげ、福島県の卓球界に古殿中の名を刻むことになりました。
また、小学生から卓球を始められるようにスポーツ少年団を設立し、古殿小中学生卓球大会の開催と現在の卓球古殿の基礎をつくりあげました。
また、地元の方に古殿の子供たちが活躍する姿を見ていただき、卓球に対する理解を深めてもらうため、県内外の強豪選手を招待し卓球大会を開催するようになりました。
その後も卓球大会の開催とスポーツ少年団の活動は続けられ、今では中学校のOB会が開催する大会としては数少ない大会として古殿町の恒例行事となりました。
我々OB会は、この伝統をこれからも守りながら、小中学生の指導にあたりたいと思いますので、今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

第4節 福島県卓球協会会津支部

支部長 平出 雄次

〈会津の卓球のあゆみ〉

昭和10年（1935）

旧制中学唯一の卓球部は喜多方女学校で指導者は安達先生であった。

昭和16年（1941）

大東亜戦争により中断。

昭和21年（1946）

10月に会津卓球協会として大会を開催する。昭和23年8月会津卓球連盟を発足し県卓球連盟に加盟する。発起人は慶徳（喜女教員）、矢部平作、猪股俊夫、冠木新助、平出雄次、岩田喜一、日夏秀雄、江川昌彦 橋本新一の各氏であった。

初代会長に本田栄、副会長に岩田喜一、初代理事長には平出雄次が選ばれた。このころより方々の学校に卓球部が作られてきた。昭和56年会津卓球協会と改名する。

昭和22年(1947)

全国大会シニアの部で平出雄次が3位に入賞、ほかに大川原(若松一高)が活躍した。また全日本軟式大会に出場した山寺清一がランキング入りを果たす活躍をした。ほかに菅家、兼子、秋山、星、伊豆井らの名選手が輩出して会津の全盛期でもあった。

昭和28年(1953)

福島県高校体育大会、福島県総合体育大会個人戦で平野四郎(会津高)、新田千枝子(会女)が揃って優勝。一般では兼子章がまた軟式では山寺清一、40才以上では岩田喜一がそれぞれ優勝した。阿部、左雨(会工)、平野、寺井(会津高)、石川(若商)、江川(喜商工)、新田、吉田(喜女)、佐原(会女)、佐藤、渡辺、長谷川、斎藤、水野(喜女)らの選手が活躍全国大会に進出した。この頃、全会津中学校の大会で山郷中学校が女子団体戦13連勝の長きにわたった。指導者は斉藤正先生。会津卓球連盟2代目会長吉川景亮となる。

昭和29年(1954)

新田千枝子(会女)が福島県高校体育大会、福島県総合体育大会女子単優勝の二冠を制覇。唐橋が軟式男子単で優勝国体出場を決めた。

昭和30年(1955)

会津若松市に於いて全国都市対抗卓球選手権大会が開催され荻村選手の華麗なるプレーがみられた。福島県総合体育大会軟式男子単で岩田が優勝。高校では若女高が福島県高校体育大会女子学校対抗で優勝を飾る。

昭和31年(1956)

福島県高校体育大会女子単で佐藤則子(喜女)が優勝、女子複では大沢寛子、小高敏子(若女)が優勝した。女子学校対抗では喜女が制した。福島県総合体育大会の高校女子単では渡辺花(喜女)が優勝。一般では硬式男子単で平野四郎、軟式男子単で阿部栄が優勝を果たした。なかでも小荒井俊雄(喜商工)が善戦して全国大会の切符を獲得した。

富田(若商)、十二所(喜商工)、斉藤、長谷川(喜女)らが活躍していた。

昭和32年(1957)

福島県高校体育大会、福島県総合体育大会の高校女子単の部で斉藤ワカ(喜女)が活躍二大会を制覇した。

高校男子で寺坂、穴沢、長峯の選手が活躍、高校女子複でも長谷川孝子、斉藤ワカ(喜女)が優勝。一般男子単でも唐橋の優勝があった。

昭和33年(1958)

福島県高校体育大会女子学校対抗で会女高が優勝。女子単で水野和子(喜女)、女子複で水野、斉藤和子(喜女)組が優勝をさらった。福島県総合体育大会では女子単で平野幸子(会女)、一般では硬式女子単で横田トミの優勝があった。会津にあっては五十嵐(会工)、福王寺(喜高)らの活躍があった。

昭和34年(1959)

福島県総合体育大会一般女子単優勝の横田トミだけの少ない記録だった。安部、平野(会津高)、片桐(会女)、金田(喜女)らが出た。

昭和36年(1961)

会津で唯一気を吐いたのが、丸ヨシ子、田崎朝子(会女)組の福島県高校体育大会女子複での優勝であった。室井、阿部(会津高)、玉川(会工)、中川(喜商工)、水野、田代(喜女)らが頑張っていた。

昭和37年(1962)

成績がふるわない年であった。地区では浅坂、長嶺、芳賀(会工)、稲村(若女)、北原、山寺(会

女)、齊藤(会農)、岩原(喜女)、荒家(若商)、星(田島)、等がいた。高体連委員長は手代木健先生でした。

昭和38年(1963)

福島県総合体育大会高校男子単で浅坂登(会工)の優勝。会津では佐藤(会工)、山口、三橋(喜高)、山田、菊地、齊藤(若女)、波田野(若一)らがいた。

昭和39年(1964)

福島県総合体育大会男子複穴沢、浅坂(会工)組優勝。

昭和40年(1965)

福島県総合体育大会高校男子単で長峰忠雄(会工)が優勝。渡部(喜商)、上野(会工)、川村、常世(会高)、古川、鈴木(若女)がいた。

昭和41年(1966)

福島県総合体育大会男子学校対抗で会工が優勝する。高校男子単佐藤鉄雄(会工)、高校女子複菊地、齊藤(若女)組が優勝。

会津では大堀、酒井(会工)、神(猪高)、細矢(猪高)、白岩(若商)、大竹、佐藤、白井(会女)、野田(若一)が活躍していた。

昭和42年(1967)

福島県高校体育大会男子単で白岩明男(若商)、女子単大竹ミサ子(会女)がそれぞれ優勝。福島県総合体育大会高校女子単で大竹ミサ子(会女)、女子複で石田、野田(若一高)が優勝。一般では軟式女子単で五十嵐京子と40才男子単で土屋弘が優勝した。

会津では目黒(喜工)、神田(喜高)、女子では山崎、大塚(喜商)、佐藤(若一高)らが頑張っていた。

昭和43年(1968)

福島県高校体育大会の男子単で芳賀善光(若商)が優勝。福島県総合体育大会高校男子単においても芳賀善光が優勝を飾り、一般軟式男子単では穴沢が優勝に花を添えた。

会津においては佐藤、湯田(会工)、長谷川、遠藤(若商)、女子では佐藤、橋本、星、鈴木、三沢(会女)、高橋(喜商)らの記録が残っている。

昭和44年(1969)

福島県体育大会硬式男子単で芳賀善光の優勝記録がある。伊藤(若商)、佐竹(会農)、飯塚(喜高)、芳賀、石川(喜商)、渡部、小林(若女)らがいた。

昭和47年(1972)

会津の新時代の到来。会長、星善六、理事長、土屋弘、高体連委員長、渡部洋一、中体連委員長、安斎驟暹、監事、猪股左恭、大島主税の陣容。そして以前より協力と理解のあった神田久子(会計)がいた。大会で活躍した大島和彦(坂下ク)、正木美代子(リズム)の二人が会津総合体育大会個人戦で優勝している。第1回の白虎杯卓球大会が開催される。男女単を制したのは、坂内登良喜(会鉄ク)、小林幸江(富士通)だった。橋本クラブ、会鉄クラブ、喜多方クラブ、坂下クラブ、猪苗代クラブ等のほかに企業所属のチームがあり社会体育が盛んになって来た。高校でも江川(喜工)、鈴木(喜高)、玉水(会高)、齊藤(会農)、独古、阿部、小山、猪股(会工)、女子では白土、矢部、安藤(若女)、檜山(会女)、渡部(若商)、高橋、齊藤、清水、渡部(喜商)の顔ぶれがいて前途に光明が感じられた。特に江川淳一の活躍は素晴らしいものであった。

昭和48年(1973)

県での成績はまだふるってないものの全会津春季硬式卓球大会一般男子単2年連続の優勝。白虎杯卓球大会男子単優勝、全会津秋季硬式卓球大会男子単2年連続優勝とたて続けて果たした江川淳一(喜工)の戦績は驚くばかりであった。会津総合体育大会男子単で優勝した後藤利明(橋本ク、長崎屋)も忘れられない。高校男子では小野寺、佐藤(喜工)、遠藤、三沢(会農)、高校女子は大河原(喜商)、佐藤(喜女)、湯田、五十嵐、星(会女)等がいた。

昭和49年(1974)

福島県高校体育大会男子学校対抗で喜工が優勝。男子複でも小野寺敏彦、鈴木善光(喜工)組の優勝で先が開かれてきた。この頃中学では水戸昇、安斎驟暹、速沼昭、長谷川敬等の指導者が情熱を傾注して、優秀な選手を送り出していた。高校には渡部洋一、渡部長二、清水徹、斉藤隆弘の指導者がいて理想的な流れであった。一般でも谷川嘉次、菊地正雄、柏木恒和、芳賀哲也、芳賀善光など多くの指導者がいた。このあと喜工が福島県高校体育大会学校対抗4年連続優勝を樹立することになる。また協会を支えてくれた人に事務局の田部照男、審判長として活躍された三留昭男、中体連委員長の五十島栄伍の業績は大きい。会津の大会では全会津春季硬式卓球大会男子単優勝の芳賀善光(会鉄ク)と女子単優勝の小林幸江(富士通)がいる。また会津総合体育大会、全会津秋季硬式大会男子単の二冠を制した横田一郎(坂下ク)がいた。そして、須藤泰子(北山中)が白虎杯卓球大会一般女子単において中学生で初優勝の快挙を成し遂げ、これより北山中学校の台頭がはじまる。

昭和50年(1975)

福島県高校体育大会男子学校対抗で喜工が優勝。同女子単優勝、佐藤美穂(会女)。女子複優勝、高原ますみ、佐藤(会女)組。男子複優勝、木村義栄、武藤勇(喜工)組。また福島県総合体育大会教職員の部で渡部長二(喜女教員)が優勝。さらに福島県中学校体育大会で速沼昭(喜三中教員)が率いる喜多方三中が女子団体戦で優勝。東北中学校体育大会8位入賞を果たし、全国大会で優秀校に選ばれる。会津においては、高校生が大活躍し春季大会で小田切和範(喜工)、高橋恒子(喜女)、会津総体で三瓶(会高)、渡辺照子(富士通)、白虎杯大会女子単で中川睦子(喜女)、秋季大会で千葉(会工)、高橋(喜女)がそれぞれ優勝した。そのほかに深沢(喜工)、大掘(会工)、長谷川(若商)、女子では須藤(喜高)、大竹(会女)、石田(坂下高)が活躍した。

昭和51年(1976)

福島県高校体育大会学校対抗で喜工、喜女が揃って優勝した。同女子単では須藤泰子(喜高)、女子複で中川睦子、菊地久美子(喜女)組が優勝。高校女子の部の全種目とも東北、全国大会出場を独占。福島県総合体育大会学校対抗でも喜工、喜女が制覇した。

高校女子単で中川睦子(喜女)、一般硬式男子単で江川淳一がそれぞれ優勝。福島県高校新人戦大会において喜女が連続優勝と全国大会出場を決める。そのほか北山中が東北中学校大会で女子団体3位、全国中学校大会女子団体6位入賞を果たした。会津では春季大会男子単優勝が横田一郎、女子単優勝で須藤泰子(喜高)、会津総体では男子単優勝の外山義彦(喜ク)と女子単優勝の大塚(富士通)がいた。また秋季大会男女単では横田(坂下ク)、大野(喜女)の優勝。高校男子の長谷川、佐藤稔(若商)、梁取(喜工)、女子では菅原(喜高)の頑張りもあった。

昭和52年(1977)

福島県高校体育大会女子学校対抗で喜女が優勝。同女子単で菊地久美子(喜女)、男子単で小野寺和美(喜工)、女子複では中川、菊地(喜女)の各々が優勝した。福島県総合体育大会女子学校対抗で喜女が2年連続の優勝。一般では硬式男子単で江川淳一の2年連続優勝。福島県高校新人戦大会女子学校対抗で喜女が4年連続優勝を飾る。会津の大会では春季大会男子単で小野寺和美(喜工)、女子単が金田真寿美(喜女)、会津総体の男子単で外山(喜ク)の2年連続優勝。白虎杯大会では女子単優勝が武藤志津(喜女)、秋季大会男子単は佐瀬仁之助(喜ク)の優勝、女子単が菊地(喜女)の優勝。県中学校大会で喜三中が男子団体優勝。高校男子に佐藤義、武藤(喜工)、東條(喜高)、女子には星(喜女)、鈴木(喜高)などが頑張っていた。

昭和53年(1978)

福島県高校体育大会学校対抗で喜工と喜女が優勝、全国高校体育大会に喜女が出場して学校対抗16位となる。福島県総合体育大会学校対抗では男子が喜工、女子では喜高が優勝を飾った。会津の大会では春季大会男子単で佐瀬(喜ク)、女子単が武藤(喜女)の優勝。会津総体男子単は横田(坂下ク)、女子単が箱崎(伊南ク)の優勝。白虎杯大会女子単では内海香津代(喜高)の優勝。秋季大

会の男子単が佐藤義浩（喜工）で女子単が渡辺照子（富士通）の優勝だった。この年の中体連委員長は水戸昇。この年の高校に田沢、佐藤、中川（喜工）らがいた。

昭和54年（1979）

福島県高校体育大会の学校対抗で喜女が残念ながら2位、女子複の内海、鈴木真由美（喜女）組が頑張り優勝して東北大会出場を決めた。会津大会の成績では、春季大会が横田（坂下ク）、笠井英子（喜女）、会津総体、横田（坂下ク）、白虎杯大会、横田、大竹伸枝（日東紡績）、秋季大会、佐瀬（喜ク）、渡辺（富士通）らが優勝した。特に横田一郎の活躍が輝いていた。ほかに須藤正徳（西会津）、管家（会工）、小田切敏（喜高）、武藤、須藤（喜工）、小沼（喜女）、栗山（若女）の活躍もあった。会津若松市卓球協会設立、会長は橋本新吉、理事長が長尾三郎。

昭和55年（1980）

福島県高校体育大会女子学校対抗喜女2位、福島県総合体育大会女子学校対抗喜女2位。二大会とも東北大会出場。会津の大会では白虎杯大会、小林義栄（喜ク）、笠井（喜女）が優勝。その他の成績は不明。主な高校生には五十嵐修二、岩本爾郎、別府（喜高）、米山貴之（会工）、青山、渡部、中川（喜女）、長谷川、大浜（若女）などの顔ぶれがみられた。時の高体連委員長に渡部長二、中体連委員長は古川憲男（若松三中）だった。

昭和56年（1981）

福島県高校体育大会女子学校対抗で喜女が優勝に返り咲いた。女子複、管家奈々子、小田切浩美（喜女）組、男子複、渡部洋二、佐藤隆司（喜工）組の優勝。福島県総合体育大会、福島県高校新人戦大会の女子学校対抗でも喜女が堂々の優勝を飾った。一方会津の大会では春季大会、阿部（富士通）、大浜とし子（オリンパス）、会津総体、横田（坂下ク）、女子単、栗山（富士通）、白虎杯大会、岩本爾郎（喜高）、大山真由美（田島中）、秋季大会、五十嵐修二（喜ク）大浜とし子（オリンパス）、ほかに活躍した高校生に佐藤隆司（喜高）、赤城、小沼、高畑、五十嵐（喜女）等らがいた。この年に会津卓球連盟の名称から会津卓球協会と改められた。

昭和57年（1982）

福島県高校体育大会女子学校対抗で喜女が優勝。女子単で赤城美智代（喜女）、女子複では青山千賀子、赤城（喜女）組が優勝をさらった。また、福島県高校新人戦大会においても喜女が制した。地元の大会では春季大会が佐藤隆司（喜工）、赤城美智代（喜女）の高校勢が優勝。会津総体は横田（坂下ク）、大浜（オリンパス）。白虎杯大会、湯田洋一（球友）、荒明美絵子（若女）。秋季大会、五十嵐修二（喜ク）、青山千賀子（喜女）のそれぞれが優勝した。ほかの高校生には東條、佐藤（喜工）、穴沢（喜高）、星（会高）、安部、塚原（喜女）が頑張っていた。この中体連委員長は森山敏夫。また会津若松市家庭婦人卓球連盟が誕生、理事長は滝口静枝。

昭和58年（1983）

福島県高校体育大会で喜女が学校対抗優勝。福島県総合体育大会学校対抗で喜工、会女が優勝。春季大会男子単、東條秀二（喜工）、女子単、赤城（信金）、会津総体男子単、芳賀（会鉄ク）、女子単、五十嵐和江（オリンパス）、白虎杯大会男子単、横田（坂下ク）、女子単、赤城（信金）、秋季大会、東條秀二（喜工）、遠藤厚子（喜女）の優勝。井上、小池（喜工）、菊地浩次（喜高）、山川（会高）、五十嵐（会農）、大関、井上（会女）、佐藤、五十嵐（喜女）等も活躍した。中体連委員長は連沼昭（若松二中）。

昭和59年（1984）

福島県高校体育大会女子学校対抗喜女優勝。同女子複で安倍一美、佐藤誠子（喜女）組が優勝。福島県総合体育大会高校女子単で遠藤潤子（喜女）が優勝。全会津春季大会男子単、五十嵐（東北学院大）、女子単、赤城（信金）、会津総体男子単、大島一彦（坂下ク）、女子単、笠井（信金）、白虎杯大会男子単、横田（坂下ク）、女子単、鈴木久美（信金）、秋季大会男子単、五十嵐（東北学院大）、女子単、赤城（信金）が優勝した。この年、高校生で新たに名をあげたのが馬場、物江（若商）、佐藤（喜工）、秋山（喜女）だった。名指導者の連沼昭氏が多くの人々に惜しまれながらも亡くなられ

て、悲しみに包まれた。喜多方女子高校は、高校総合体育大会卓球競技会津地区予選大会において10年間連続優勝の偉業を樹立。県内屈指の伝統校であるとともに、文武の両立と礼節を重んじ他の模範とするところにより会津体育協会より優秀団体賞を受賞した。メンバーは菊地直子、佐藤誠子、遠藤敬子、安部一美、遠藤淳子、生亀弘子、小島明子、田部由美子、二瓶克子で顧問は斎藤隆弘教諭。故蓮沼氏の後任の中体連委員長に井関隆（一箕中）。

昭和60年（1985）

福島県高校体育大会男子複で馬場伸一、物江淳一（若商）組が優勝して東北大会に出場、堂々の優勝を果たし全国大会へ進んだ。会津地区の高校の大会でも馬場（若商）が優勝。女子単では酒井久仁子（喜三中）が見事優勝した。全会津春季大会では馬場（若商）、五十嵐さゆり（喜女）、会津総体は芳賀（会鉄ク）、仲山正子（若松ク）、白虎杯大会が横田（坂下ク）、佐藤久美（喜女）、秋季大会では橋谷田英實（卓友会）、東條恵美（北山中OG）のそれぞれが優勝した。また小楡山（若商）、大山（会工）も頑張っていた。

昭和61年（1986）

福島県高校体育大会女子学校対抗で喜女が優勝。女子単で五十嵐さゆり（喜女）、女子複で五十嵐、秋山和代（喜女）組が優勝した。福島県総合体育大会高校女子学校対抗でも喜女が優勝に輝いた。全会津春季大会男子単は五十嵐修二（喜多方ク）、女子単が仲山正子（若松ク）の二年連続、白虎杯大会女子単は佐藤久美（喜女）、秋季大会男子単が二年連続の橋谷田（卓友会）、女子単は今井千加（喜女）などが優勝した。会津卓球協会の役員の変更があり会長に土屋弘、理事長、千葉恒夫となる。

昭和62年（1987）

福島県高校体育大会女子学校対抗で喜女が優勝。女子単は古川明子（喜女）、女子複では東條由美、古川（喜女）組の優勝。福島県総合体育大会学校対抗においては喜工と喜女のアベック優勝だった。なお同女子単でも東條由美（喜女）が優勝を果たした。そして、東北大会学校対抗で二位となり全国大会出場。メンバーには秋山和代、酒井久仁子、大塚幸枝、古川明子、東條由美、関本知恵、佐野修子、大河原加代子で顧問は田中武彦、小林孝雄の両教諭であった。またその成績と他の模範となる団体プレーにより会津体育協会から優秀団体賞を受賞した。全会津春季大会では須藤正徳（西会津ク）、東條由美（喜女）、会津総体男子単、五十嵐（喜多方ク）、女子単、赤城（信金）、秋季大会男子単、須藤（西会津ク）、女子単、秋山（喜女）等が優勝した。この頃の主な高校生に佐藤学、酒井、渡部（喜工）、庄司（喜高）、金子、三瓶、大野（会高）、大場（喜女）等が頑張っていた。この年の白虎杯大会から団体戦のみとなり、男子団体が双葉クラブ、女子団体は喜女高が優勝した。中学団体戦は男女とも植田中学校が制した。

昭和63年（1988）

福島県高校体育大会女子学校対抗で喜女が優勝。女子単では古川明子（喜女）、女子複は東條由美、古川（喜女）組が二年連続の優勝を制覇した。また男子複も金子雄治、三瓶剛治（会高）組が優勝をさらった。福島県総合体育大会女子学校対抗でも喜女が制し、女子単では東條由美（喜女）が優勝をさらった。福島県総合体育大会女子学校対抗でも喜女が制し、女子単では東條由美（喜女）がこの大会、二年連続の優勝を飾る。また東北大会では女子団体三位、古川、東條組の女子複二位の成績で全国大会へ出場。江川真澄、小田切佳代、関本知恵、東條由美、古川明子、大河原加代子、佐野修子等がメンバーで会津体育協会より表彰された。全会津春季大会では佐藤学（喜工）、東條由美（喜女）、会津総体は橋谷田（卓友会）、秋山和代（信金）、秋季大会が岩本（喜多方ク）、古川（喜女）等が優勝。他の高校生には遠藤政孝、梶内英行、原、後藤、（喜工）、加藤、小山（会高）、薄（喜女）等の活躍があった。会津卓球協会役員の変更で会長が土屋弘、理事長、北澤宏、高体連委員長、斎藤隆弘、中体連委員長、馬場俊忠（若松二中）となる。

平成元年（1989）

福島県高校体育大会女子学校対抗喜女優勝。同女子単、薄香織（喜女）、女子複、佐野修子、山口育子（喜女）組の優勝。東北大会団体三位、女子複二位、全国大会出場。福島県総合体育大会高校

女子学校対抗で喜女優勝。全会津春季大会、大内雅之（県保証協会）、山口育子（喜女）、会津総体、岩本（朝日小）、秋山（信金）、秋季大会、岩本（喜ク）、佐野修子（喜女）等が優勝。他の高校生では小澤、芥川、山田（喜工）、山田（会工）、長谷川（喜女）の活躍もあり中でも谷川嘉成（若松四中）が特に目立った。

平成2年（1990）

福島県高校体育大会女子学校対抗喜女優勝。喜女の優勝は昭和30年より平成2年まで36年間で福島県高校体育大会と福島県総合体育大会高校の部だけで19回の優勝を数える。他に福島県高校新人戦大会での優勝記録も多くある。この年に行われた福島県総合体育大会高校女子単で薄香織（喜女）が優勝。一般では壮年男子で津田圭一が優勝している。この年の会津大会の記録はなく残念だが不明である。高校では中島（会農）、小野（会高）、秋山、広瀬（喜商）、小林（若女）、小椋（喜女）の活躍がみられた。

平成3年（1991）

この年は高校生の福島県での活躍がなく、一般人が僅かに頑張った。福島県総合体育大会二部女子単優勝、東條由美、同壮年男子単優勝、津田圭一の二人である。全会津春季大会では馬場伸一（卓友会）、長谷川まり子（喜女）、会津総体で五十嵐（日本モトローラ）、酒井（信金）、秋季大会が谷川嘉成（会工）、小林美喜子（若女）が優勝した。物江真理（会農）、久力垂矢（喜女）、菊地、渡部（喜商）等も頑張っていた。この時の高体連委員長は高橋司（会女）であった。

平成4年（1992）

福島県体育大会男子単優勝、中島龍一（会農）、福島県総合体育大会壮年男子優勝、津田圭一（喜ク）、全会津春季大会優勝、谷川嘉成（会工）、大塚幸枝（喜女）、会津総体女子単優勝、谷川松枝（信金）、男子単は不明。また全日本卓球選手権大会福島県予選大会ジュニア男子単で谷川嘉成（会工）の優勝があった。ほかに鈴木智裕（会工）、阿部貴博（会農）、武藤佳奈子、山口緑、穴沢恵（喜女）、物江真希（会農）等の活躍もある。11月には会津若松市の要請をうけて中国北京市で開催された、日中友好都市卓球カーニバルに参加して中国湖北省沙市市卓球関係者と交流をする。

平成5年（1993）

福島県高校体育大会男子単優勝、谷川嘉成（会工）、福島県総合体育大会高校男子単優勝、谷川嘉成（会工）、全会津春季大会優勝、谷川嘉成（会工）、穴沢恵（喜女）、秋季大会優勝、谷川（会工）、武藤（喜女）。ほかに河瀬広樹、佐野智宏（会工）、大塚勝利、菊地良明（喜商）、大内ひろみ、小椋山幸子（喜女）、五十嵐千佳、佐々木理恵（若女）等が頑張っていた。

平成6年（1994）

この頃より中学、高校の逸材が少なくなり県内の他地区の幼年からの育成とクラブチームの充実さが完成期を迎えて会津のレベルの低下が際立つ。福島県総合体育大会壮年女子優勝、滝口静枝（会津ク）。全会津春季大会優勝、佐藤学（谷川ク）、谷川松枝（谷川ク）、会津総体も佐藤、谷川（谷川ク）の続けての優勝。秋季大会は谷川嘉成（谷川ク）、田村ミサ子（会津ク）の優勝。高校生で頑張ったのは遠藤聡（喜工）、小池清彦（会工）、芥川幸恵、渡部幸子（喜女）等がいた。高体連委員長遠藤良市（会工）。

平成7年（1995）

福島県総合体育大会女子二部優勝、大山美加子（中島TTS）、同壮年女子優勝、田崎朝子（会津ク）、全会津春季大会優勝、佐藤学（喜ク）、三橋由香（喜ク）、会津総体優勝、谷川（谷川ク）、瓜生恵美（喜ク）、秋季大会優勝、柏倉一博（中島TTS）、酒井久美（中島TTS）。高校生には佐藤幸一、芳賀廣幸（会工）、唐橋伸幸、讃岐隆弘（会高）、猪股貴美（喜女）等がいた。中学生に横山和広（若松四中）、岩月健志（荒海中）の二人が光っていた。第50回国民体育大会が須賀川市で開催される。成年女子二部で会津出身の東條由美が出場活躍して優勝に貢献した。審判員として小林朋子、赤城市子の二名が参加した。中体連委員長、星健一（大戸中）。

平成8年(1996)

全会津春季大会優勝、小池浩二(ゴッツ)、田村ミサ子(会津ク)、会津総体優勝、小澤喜隆(喜ク)、酒井久美(喜ク)、秋季大会優勝、中島仁(中島TTS)、田村ミサ子(会津ク)、高校生には遠藤広忠(喜工)、菅野剛生(喜商)、山浦義樹(会高)、大山裕子、渡部祥子、佐藤直美(若女)等がいた。会津若松市と中国湖北省荆州市の友好都市協定により卓球コーチの胡培建先生が一年間の予定で滞在。中体連委員長、小原博明(若松一中)、協会事務局長、小林昭二(会工)。

平成9年(1997)

全会津春季大会優勝、胡培建(中国)、田村ミサ子(会津ク)、会津総体優勝、五十嵐好哉(中島TTS)、酒井久美(喜ク)、秋季大会優勝、胡培建(中国)、酒井(喜ク)。高校生には五十嵐智史(喜高)、渡部喜一郎(田島高)、鈴木奈々、加藤早苗(喜女)、佐藤裕美(若女)、秋山仁美(喜商)等がいた。9月、胡培建先生帰国、呉曉峰先生来日。日中ジュニア卓球大会が中国北京市で開催。監督、北澤宏、選手、鈴木雄作(会工)、大山裕子(若女)が参加。この年の中体連委員長、馬場俊忠(南郷中)。

平成10年(1998)

全会津春季大会優勝、佐藤学(喜ク)、酒井久美(喜ク)、会津総体優勝、遠藤政孝(DOスポーツ)、安部幸枝(喜ク)、秋季大会優勝、佐藤学(喜ク)、武藤佳奈子(喜ク)、高校生には渡部健仁、工藤真一郎(会工)、渡部陽介、半沢康至、小林勇介(会高)、横田(若女)、那智上恵、木村絵海(喜女)、渡部諒子、木下ゆかり(会女)等がいた。3月に一生卓球に情熱を注いだような谷川嘉次氏が亡くなる。中体連委員長、小田切敬(会北中)。会津卓球協会長 松崎 繁。

平成11年2月(1999)

終わりに文中の人名の敬称を省略しましたのでご容赦ください。先人の偉業とかかわってきました人々に深く感謝いたします。
(理事長 北沢 宏記)

第5節 福島県卓球協会相双支部

支部長 堀 川 清 光

〈相双支部の歩み〉

昭和16年頃から小高町を中心に卓球熱が盛んになり、卓球の愛好者が徐々に増えて来た。特に原町においては、私設の卓球場が開設され(笹森、若竹両卓球場)中学生から一般まで、この施設を広く利用する卓球愛好者が多かった。

また、小高町では、半谷支部長の管理する卓球場があり、当地でも愛好者が増加の一途をたどっていた。

当時原町において「原町卓球協会」が発足し初代会長に高城先生が就任された。これを機に官公庁、民間会社等において卓球部が次々に誕生することとなった。

特に原町においては、当時の原町紡績KK、丸三製紙KK、原町市役所等に愛好者も多く、部活動も盛んであった。

昭和30年頃から、県労政事務所相双支部主催の大会をはじめ、その他各種大会が盛んに開催されるようになったが、当時の大会の会場となる施設は学校のみで卓球台も少なかったため、必要とする台数を各学校から寄せ集めて間に合わせるしかなかった。卓球台を会場に運搬するのが大変な作業であった。なかでも、冬期雪の降る日に遭遇した場合は更に大変な作業であった。

当地方の高校生の卓球熱も盛んで、支部内の各高校には優秀な選手も出て、県大会、全国大会等に出場して力を発揮した選手も多かった。

以上のように、支部発足時には、支部役員や指導者らとともに支部運営に意欲的にとりくんだ結果、卓球愛好者の熱意が一段と盛り上がりを見せ愛好者の数も年々増加していった。

相双支部は県内一弱く、昭和55年に中学生の学年別及び新人戦を支部主催として実施することにより、支部役員と中学校の顧問教師との交流を図ることにより、全体のレベルアップにつながるものと確信し、現在も継続している。

昭和60年にENDO杯を設けたのは、遠藤七兵衛氏の支部長として20年に亘る功績をたたえる目的と、他支部一流選手と試合することによって中学生、高校生、社会人のレベルアップを図ることを目的としたものである。

その後、中学、高校の顧問教師と支部役員との練習試合と懇親会を行い情報交換する会を数回実施し互いの交流を図った。

さらに、県総体が相双地区で開催されたのを機に、支部主催を通してレベルアップを図ることを目的とした次第である。

昭和55年頃からセントラルクラブ、KMDクラブの発足に伴い、徐々に選手が強化され、福島国体前年には支部対抗戦で優勝争いに加わるまで実力アップが図られた。

◇歴代支部長

初代	半谷 敬寿	二代	鈴木重郎治
三代	伊賀 敏	四代	遠藤七兵衛（昭36年～63年）
五代	相沢 辰男（H元年～5年）	六代	堀川 清光（平7年～現在）

◇歴代役員

・理事長	浜名 秀雄（S36年～53年）	鎌田 尊（S54年～62年）
	横山 実（S63年～H10年）	齊藤 一美（S11年～）
・事務局長	相沢 辰男（S36年～53年）	堀川 清光（S54年～H4年）
	星 正孝（H5年～6年）	原 晃（H7年～現在）

◇高等学校卓球部OB会主催の大会

- ・馬城杯争奪卓球選手権大会（相馬高OB会）
- ・浮舟杯卓球大会（小高工業高OB会）
- ・双葉卓球大会（双葉高OB会）
- ・国見杯（原町高OB会）—中断—

◇記念事業の開催

- ・昭和52年 元世界卓球チャンピオン 「長谷川信彦選手を招聘」
当地方の中学生から一般までの卓球愛好者が一堂に集い、長谷川選手の模範演技に感銘更に技術講習を受け、参加者一同大感激。大盛況であった。

◇支部主催の大会

- ・遠藤杯相双選手権大会（昭和56年～）
- ・市町村交歓卓球大会（平成9年～）
- ・TSP卓球大会

◆ 原町市卓球協会

会長 相澤 辰男

1. 設立 昭和30年10月1日

2. 歴代会長

初代	高城 繁雄	二代	遠藤七兵衛
三代	浜名 秀雄	四代	相澤 辰男

3. 現在の組織

会長	浜名 秀雄	副会長	渡辺 新一・堀川 清光
事務局長	岡村 明	理事	相澤 辰男・斎藤 一美
会計	佐藤 栄子	監事	前田 利己・大和田信孝

4. 運営方針

市内の卓球愛好者の親睦と融和を図りながら卓球人口の底辺拡大と技術の向上を目指すことを主目標とする。

特に、平成11年より役員を一新し、広く会員を募り、活動を活発化するように努力したい。

5. 大会

原町市民卓球大会の開催

毎年10月10日体育の日に開催している。

6. 各種体会への参加

- ・福島県家庭婦人卓球大会への参加
- ・福島県ラージボール卓球大会への参加
- ・その他各種大会への積極的参加

(相澤辰男・記)

◆ 相馬市卓球協会

会長 西郷 徹夫

1. 設立年月日 昭和33年10月1日

2. 設立の経過

相馬市体育協会への加盟を契機に、岩井半衛氏の経営する「岩井卓球場」を活動拠点にしていた愛好家グループが中心となり、当時相馬市議会議員であった清水重五郎氏を会長に推薦し協会が発足した。

3. 歴代役員（会長・理事長）



初代会長
清水重五郎
(昭和33年～昭和42年)
[相馬市議会議員]



二代会長
梅原 實
(昭和43年～昭和61年)
[自営業・梅原電気]



三代会長
西郷 徹夫
(昭和62年～現在)
[元高校教員]

☆歴代理事長

佐々木政喜
(昭和39年～昭和62年)
[公務員・相馬市役所]

早坂 勝信
(昭和63年～平成元年)
[公務員・相馬市役所]

鈴木 誠一
(平成2年～現在)
[団体職員・相馬市社会福祉協議会事務局]

4. 現在の主な役員

- | | |
|------|--|
| 名誉会長 | 梅原 實 [自営業・梅原電気] |
| 会長 | 西郷 徹夫 [元高校教員] |
| 副会長 | 横川 芳茂 [元中学校教員]・伏見 利博 [東北工業大学職員] |
| | 佐原 英利 [元中学校教員] |
| 理事長 | 鈴木 誠一 [団体職員・相馬市社会福祉協議会事務局] |
| 副理事長 | 高玉 忠利 [会社員・NTT東北] |
| 幹事 | 小泉 直人 [会社員・アルプス電気(株)]・桜井 眞正 [自営業・電気設備] |
| | 斎藤 智英 [会社員・マリンクロット] |

※その他、加盟団体代表理事24名から構成

5. 運営方針と主な事業計画

○平成10年度相馬市卓球協会運営方針

・基本方針

相馬地方の卓球競技の普及振興と競技水準の向上を図るとともに、本協会の組織運営の充実に努め、併せて会員相互の親睦を深める。

・目標と事業計画

(1) 卓球競技の普及振興と競技水準の向上を図る。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 相馬市民体育大会卓球競技の開催 | ② 相馬市民親善卓球大会の開催 |
| ③ 松川浦荘杯卓球大会の開催 | ④ 中学生強化練習交流会の開催(3回) |
| ⑤ 小学生・中学生のための卓球教室の開催 | ⑥ スポーツ少年団の育成指導(年間)助成 |
| ⑦ 卓球愛好者の育成と指導 | ⑧ ファミリー卓球の普及 |

(2) 指導者の養成と資質の向上を図る。

- | | |
|-------------|---------------------|
| ① 指導者研修会の開催 | ② 審判講習会、指導者研修会等への派遣 |
|-------------|---------------------|

(3) 組織運営の充実に努めるとともに会員相互の親睦を図る。

- | | |
|----------------|---------------|
| ① 会員数の拡大と財源の確保 | ② 事業別担当者会議の開催 |
| ③ 懇親会・納会の開催 | |

(4) 広報活動その他会員への情報提供に努める。

- | | |
|------------|------------------|
| ① 広報活動の推進 | ② 関係団体に対する共催及び後援 |
| ③ 会員への情報提供 | |

(5) 各種大会への選手・役員の派遣に努める。

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| ① 県民スポーツ相双地域大会への派遣 | ② 相双地域市町村交歓卓球大会への派遣 |
| ③ 全国大会・東北大会への出場者(団体)に対する激励金の交付 | |

※全日本クラブ卓球選手権大会出場 相馬クラブ(7月・長野エムウエーブ)

6. 協会の構成

○加盟団体(15)

☆中学校卓球部 [中村一中・中村二中・向陽中・玉野中・鹿島中・尚英中]

☆高校卓球部 [相馬高校・相馬女子高校]

☆相馬高校卓球部OB会 ☆相馬女子高校卓球部OG会 ☆アルプス電気卓球部

☆相馬卓球クラブ ☆相馬クラブ ☆新地クラブ

☆卓球スポーツ少年団

○一般登録会員(70名)

7. 相馬市卓球協会のあゆみ

◇昭和初期から戦前・戦後のころ(昭和初期～昭和20年代)

スポーツ人風土記(吉田清計著・道和書院)の「卓球・その創始期」によると、昭和初期には県下各地域で、各地区主催の大会が盛んに行われるようになり、相馬中村においても大会が開催された。当時活躍したチームには福電(現在の東北電力)、福島高等商業、福島師範学校等の中に中村税務署、相馬中学があげられており、さらに戦前における本県卓球界は、福島勢(田辺栄治郎、鈴木惣介、木幡美明)と相馬勢(半谷敬寿、鈴木重郎治)との間で勝敗が争われていたと記されている。

このことから、当相馬地方においても昭和初期から戦後にかけて、多くの卓球愛好者が職場や地域で仲間をつくり、かなり高いレベルで卓球を楽しんでいたと推察される。(昭和21年～昭和24年)

◇協会発足のころ(昭和30年代～昭和40年代)

相馬市の卓球協会は、前述のように戦後岩井半衛氏の経営する「岩井卓球場」を拠点に活動していた愛好家約30名のグループが、昭和33年に市体育協会設立の呼び掛けに応じ、協会を結成(会長:清水重五郎)して活動を開始したといわれている。その当時の活動状況を示す資料がないので詳らかではないが、昭和34年4月10日の皇太子・美智子妃殿下の御成婚を祝い、愛好者が集い記念

卓球大会などを開催してゲームを楽しんだということである。

また、当時日本のトップレベルにあった中央大学の選手を招聘し、卓球を志す中学・高校選手を対象に卓球教室を開催し卓球競技の普及と競技水準の向上に努めた。

昭和39年に東京オリンピックを記念し、国民の祝日として10月10日が「体育の日」に制定されたことに伴い、当市においても各競技種目を統合した市民体育大会が開催されることになった。

当協会としてもこれを機に規約を定め、ようやく協会としての組織がつくられ、新たな活動を開始することになった。

しかし、その後の活動内容は専ら「体育の日」の卓球競技の開催が主な事業であり、その他は労政事務所等の主催する競技会をはじめ、各種卓球大会の運営に協力する程度で、これといった主催事業をもたない時が過ぎたようである。

なお、当時の大会は、ほとんどが相馬女子高校の体育館で開催され、その準備や競技の審判運営と後片付けは同高校の卓球部顧問の指導のもとで、相馬高校・相馬女子高校両校卓球部員の献身的な協力があつたことを付記しておきたい。

昭和40年ごろから昭和55年にかけては、指導者の不足などもあって、協会の運営や活動の停滞が長く続くことになった。

◇協会再建のころ（昭和57年～昭和62年）

前述のように、昭和43年～昭和55年の12年間にわたる当協会の活動は、専ら「体育の日」の市民体育大会の運営のみであった。昭和53年には、全国高校総合体育大会の本県開催を契機に、学校体育（部活動）の充実が図られる一方、地域では生涯スポーツが盛んになる中で卓球愛好者も増え、市民卓球のニーズにどう応えるかが課題となっていた。

昭和56年になって、組織が曖昧で、活動の停滞している協会の再建を願う関係者が集い、規約の一部を改正し役員改選を行い、会長に梅原實、副会長に加藤治長・西郷徹夫、幹事長に佐々木政喜を選び再出発することになり、ようやく長年の懸案であった協会再建が図られることになった。

昭和57年3月には、協会再建を契機に広く市民卓球の普及振興を図る目的で小・中高校生及び一般市民を対象とした「第1回相馬市民卓球大会」を開催しその普及に努めた。

昭和58年には、役員改選の年を迎え、会長には梅原實を再選、副会長に加藤治長（再）、横川芳茂（新）、幹事長に佐々木政喜（再）を選び、梅原会長を中心とした体制で2期目がスタートした。

唯一の主催事業である「相馬市民卓球大会」も引き続き開催し、市民卓球の普及振興に努めてきたところであるが、昭和59年には、大会運営に携わる役員の協力が得られず、参加者の減少など諸般の事情により廃止のやむなきに至り、種目の一部を「体育の日」の市民体育大会に移行する形をとった。以来、昭和62年まで再び主催事業をもたない協会となり後に課題を残すことになった。

◇協会の充実発展をめざして（昭和63年～平成10年）

昭和63年5月に開催された理事会では、昭和70年（平成7年）に本県で第50回国民体育大会が開催されるに当たって、これを契機に卓球競技の普及振興と競技力の向上を図ることから、当協会としても組織運営の充実を図るとともに長期展望に立った市民卓球の普及振興策を策定し、これを推進する体制づくりに着手することになった。

そのための協会組織の再編が行われ、会長に西郷徹夫、副会長には横川芳茂（再）、伏見利博、理事長に早坂勝信、幹事に鈴木誠一を選び新体制のもとで協会の運営に当たることになった。また、協会規約についても全面改正を行い、理事の構成も各小中・高校、スポーツ少年団、家庭婦人、事業所、相馬高校卓球部OB会、相馬女子高校卓球部OG会など10団体の代表による26名とし、広く加盟団体の意思が反映できる組織とした。

役員的大幅な改選、規約の全面改正により、人心を一新してスタートした本協会は、基本方針に卓球競技の普及振興と競技水準の向上を掲げ、組織運営の充実を図りながら、選手の育成、各種大会の開催、指導者の研修、卓球教室の開設など諸事業に積極的に取り組み、市民卓球の普及に努めた。

○主な主催事業

- (1) 中・高校生のための卓球教室 (2) 婦人卓球教室 (3) 指導者研修会
(4) 市民親善卓球大会 (5) ファミリー卓球教室

その結果、競技スポーツを志向する「相馬クラブ」（一般・高校生）、生涯スポーツを目指す「相馬卓球クラブ」・「新地クラブ」（家庭婦人・中高年）卓球を志す小中学生中心の「卓球スポーツ少年団」などのスポーツクラブが誕生し、それぞれの目的に応じ盛んに活動が展開されるようになった。

特に「相馬クラブ」は、本年6月に開催された第17回全日本クラブ卓球選手権大会（団体戦）第二部に優勝し、7月長野で開催された全国大会に出場するほどにレベルが高まっている。

「相馬卓球クラブ」も毎年、県家庭婦人卓球大会に参加して好成績を収めている。

また、本年1月に開催された第1回相双地域市町村交歓卓球大会（小学生から一般まで、年代別にシングルスとダブルスで競技する団体戦）に各クラブから選手を選抜して「相馬市チーム」を編成参加して優勝を飾っている。

◇現在、そして新しき時代へ向けて

平成7年に本県で開催された「ふくしま国体」では、6種別すべてに優勝を含む上位入賞を果たし、愛知県に続いて総合第2位という輝かしい成績を収めた。

今後は、「ふくしま国体」を契機に全国レベルにまで達した本県卓球の競技力の維持・向上を図ることが大きなテーマとなっている。

当地域からは、選手の育成強化に努めてきたが、残念ながら「ふくしま国体」で活躍する選手を誕生させることができなかった。

しかし、第50回「ふくしま国体」の本県開催を契機に卓球指導者の意識が高まり、県下各地域に多くのクラブが誕生し、地域の熱心な指導者が核となりクラブを活動の拠点に卓球人口の増大を生み出した。

当地域においても、「ふくしま国体」を契機に市民のスポーツに対する関心が高まる中で、前述のように市民各層の卓球愛好者が日常生活の中で仲間とともに卓球を楽しむ姿が多く見られるようになってきた。

これまで、学校中心にスポーツ活動が学校体育の枠の中で展開されてきた時代から、少しずつ地域のスポーツクラブが拠点となってスポーツ活動が展開される時代へと移行しつつある状況が見えるようになった。

学校を取り巻く現状は、休日などの労働条件、専門的な指導のできる教員の不足、転勤や受験体制により一貫した指導が成り立たないことなど、問題が数多くあり、卓球に限らず学校を核としたスポーツ振興が限界にきつつあることは現実である。

さらに、平成14年からの学校週5日制の実施は、特にジュニア層（小・中学生）のスポーツ活動の環境を見直す契機にもなっていることから、今後はスポーツ少年団やクラブによるジュニア層の組織的な活動が盛んになることが容易に予測される。

一方では卓球に限らずスポーツが生活の質的向上を図る上で欠かせないものとなり、生涯スポーツが広く浸透してきている今、その振興を図り定着させていくことが強く求められている。

そのための重要な要件の一は、何といても施設の整備であり、卓球が多くの市民に親しまれるためには、立派な施設が遠くにあるのではなく、身近な所に施設（卓球台）があり、いつでも使用できることが、ごく基本的な条件なのである。

今、生涯スポーツ実践の時代を迎え、市民総参加のスポーツが叫ばれている中で、ささやかな市民の「スポーツの権利」を保障する（いつでも、どこでも、誰でもスポーツを楽しむことができる条件整備）ことは、行政当局の当然果たすべき役割なのであるのだが…。

もう一つの重要な要件は、指導者である。

指導者には、基本的にその人の人柄、人格が大切な要素として求められているので、科学的な理論に基づく技術的な指導だけでなく、精神的な指導もできる能力が必要である。型にはまった指導

ではなく、選手の持っている個性や長所を上手に引き出せる指導者、教える対象者に見合った適切な指導ができる指導者が求められている。

そのためには、指導者自身が研修に心がけて指導者としての公的資格（文部省大臣認定「社会体育指導者の知識・技能審査事業」による指導者資格）を取得し、自信をもって指導に当たることである。

さらにまた、卓球に限りない情熱を注ぎ、卓球を通して人生の喜びを体験させ、人間としての進む道を知らしめる人が今、強く求められているところである。

来るべき21世紀の相馬の卓球の健全な発展のためには、『みんなが楽しめる卓球』の指導を基本におき相馬の栄光復活を目指し、指導者が一層その資質を高め導いていくエネルギーが卓球相馬の未来を拓く鍵となるであろう。
(相馬市卓球協会/会長 西郷徹夫)

8. 国際大会・全国大会等で活躍した選手

* 鈴木重郎治（相馬中学→日本大学）

- | | | |
|--------------------|--------|-----|
| ・昭和28年全日本軟式卓球選手権大会 | ベテランの部 | 第3位 |
| ・昭和29年全日本軟式卓球選手権大会 | ベテランの部 | 準優勝 |

* 梅原 實（原町高校→中央大学）

- | | | |
|-----------------------------|------|-----|
| ・昭和26年全日本学生卓球選手権大会 | ダブルス | 準優勝 |
| ※国体出場（昭23・福岡、昭24・東京、昭26・広島） | | |

* 梅原 哲次（相馬高校→中央大学）

- | | | |
|------------------|-------|---------|
| ・昭和32年東日本卓球選手権大会 | ダブルス | 優勝（田中） |
| ・昭和33年全日本卓球選手権大会 | ダブルス | 第3位（田中） |
| ・昭和34年全日本卓球選手権大会 | シングルス | 第3位 |
| ・昭和34年東日本卓球選手権大会 | ダブルス | 優勝（田中） |

* 諸星 光雄（相馬高校→中央大学）

- | | | |
|------------------|-------|------|
| ・昭和33年東日本卓球選手権大会 | ダブルス | 第3位 |
| ・昭和36年東日本卓球選手権大会 | シングルス | ベスト8 |

* 反畑 秀彦（相馬高校→日本大学→三井生命）

- | | | |
|---------------------------------|-------|------------------------|
| ・昭和36年全日本卓球選手権大会 | ダブルス | ベスト8
(三林・福高出身→中央大学) |
| ・昭和37年全日本卓球選手権大会 | ダブルス | ベスト8（三林） |
| ・昭和38年全日本学生卓球選手権大会 | ダブルス | 第3位（高橋・日本大学） |
| ・昭和39年関東学生卓球選手権大会 | シングルス | 準優勝 |
| ・昭和41年全日本卓球選手権大会 | シングルス | ベスト8 |
| ・昭和42年世界卓球選手権大会（ストックホルム・スウェーデン） | | |

シングルスとダブルス共に3回戦進出

※昭和52年～昭和54年三井生命女子監督

昭和53年第28回全日本実業団卓球選手権大会で三井生命女子チームを優勝に導いた。

※国体出場(昭34・東京)福島県代表（昭39・新潟）東京都代表（昭40・岐阜）福島県代表

* 伏見 利博（相馬高校→日本大学）

- ・国体出場（昭40・岐阜）福島県代表

* 小泉 直人（相馬高校→東北学院大学）

- | | | |
|--------------------|-------|----|
| ・昭和52年全国青年大会（卓球競技） | シングルス | 優勝 |
|--------------------|-------|----|

* 小林 幸子（旧姓・加藤）（相馬女子高校→三井生命）

- | | | | |
|-------------------|---------|-------|-----|
| ・平成7年 全日本軟式卓球選手権 | 40歳以上女子 | シングルス | 第3位 |
| ・平成11年 全日本軟式卓球選手権 | 40歳以上 | | 優勝 |

* 天野 昭子（相馬女子→トーアエイヨー）

- | | | |
|--------------------|------|-----|
| ・昭和51年 全日本実業団選手権大会 | (軟式) | 第3位 |
|--------------------|------|-----|

- *根本 裕子(旧姓・佐藤)(相馬女子一トアエイヨー)
 - ・国体出場(昭54・宮崎)福島県代表(昭56・滋賀)福島県代表
 - ・昭和53年～昭和56年 全日本実業団選手権大会 第3位
- *斎藤 智英(相馬高校→東北学院大学)
 - ・昭和57年 東北学生卓球選手県大会 シングルス 準優勝
- *佐原 英夫(相馬高校→東北学院大学→中学校教員)
 - ・平成6年第30回全国身体障害者スポーツ大会卓球競技 シングルス 優勝

9. 卓球競技の普及振興と協会の発展に貢献した功労者

☆森口 正作 相馬高校卓球部の創設に尽力し、顧問として相馬高校卓球部の第一期黄金時代(昭21～昭24)を築き上げ、戦後いちやく同校卓球の技術を全国レベルに導いた。

また、中村第一中学校に転任後も同校卓球部の顧問として選手の指導に挺身し、梅原哲次、諸星光雄、反畑秀彦など、後に全国大会や国際大会で活躍した多くの優秀選手や五代目県卓球協会長の西郷徹夫などの指導者を育て、今日の卓球界発展の礎をつくりあげた先駆者である。

☆清水重五郎 協会の設立に尽力し、初代会長として組織づくりに努め協会発展の基礎をつくった。

☆只野 喜弘 相馬高校卓球部OB会の設立に尽力し、初代会長として永年にわたり、組織運営の充実に努めた。

また、馬城杯争奪卓球選手権大会の開催に努め、当地域の卓球競技の普及振興に貢献した。

☆梅原 實 二代目会長として、永年にわたり、創始期にあった協会組織をまとめるとともに市民体育大会の拡充に努め、卓球競技の普及振興に尽力した。

10. OB会・クラブ・スポーツ少年団等の活動

『相馬高校卓球部OB会のあゆみと活動』

§ 設立のころ

OB会設立当時のあゆみを辿る糸口は、私が昭和39年4月に中村一中から相女へ転任してから、相女卓球部顧問として選手の指導に携わることになってからのことである。

中村一中時代に指導した選手たちが、相高に進学してからも引き続いて卓球部に入部し活動していたこともあり、相女・相高両校の選手を集めて合同で練習することが多かった。

そのために、多くの両校卓球部卒業生がこの合同練習、特に春夏の合宿練習(相女)にはコーチや練習相手として協力してくれたので、両校チームの競技力が年々高まっていったことを記憶している。

卒業生コーチのなかでも、反畑秀彦、伏見利博両氏の指導は素晴らしく、当時のわが国のトップレベルの技術・戦術を選手の個性に応じ直接コーチを受けたことが、その後の相高相女両校の活躍に結びつくものであった。

(県高校大会の学校対抗優勝：相高は昭和41年・相女は昭和46年と昭和50年)

この両校合同練習会の中で母校卓球部への求心力が高まり、相高卓球部OB会設立の気運が盛り上がってきたものである。

設立は、昭和42年1月1日設立総会を開催し、会則を決め、会長に只野喜弘、副会長に反畑秀彦・松田賀信、幹事長に西郷徹夫を選び、相馬高校卓球部OB会がスタートすることになった。

事業目的に、会員相互の親睦と母校卓球部発展の後援を掲げたことから現役の選手とOB会員との交歓試合(年1回)を行い親睦と交流を図ってきたが、その外にはこれといった事業をもたないまま10年が過ぎ去っている。

§ 馬城杯争奪選手権大会の創設

昭和52年になって、当時相高のPTA副会長であった只野喜弘会長から「来年(昭和53年)母校が創立80周年を迎えることになるが伝統ある卓球部のOB会として、何か記念となるイベントができないか」という相談を受けたことが「馬城杯」創設の発端であった。昭和53年4月23日、相馬高校卓球部OB会と馬城会の共催事業(馬城会からの共催負担金なし)として、相馬市教育委員会をはじめ関係団体及び報道関係各社の後援のもとで、(相馬高校創立80周年記念)「第1回馬城杯争奪卓

球選手権大会」を盛大に開催し成功を取めた。(種目：一般・高校男女シングルス、中学男女シングルス) ※参加者 200 名

以来、この大会は相双地域を中心に、県内はもとより隣県からも500名を越える参加者を得て、毎年盛大に開催されている。

本年で第20回を重ね、当地域に根ざした大会として愛好者に親しまれ、卓球競技の普及振興と競技水準の向上に貢献している。

なお、この大会のために相馬市教育委員会から毎年20万円の助成金の交付を受けている。

§ 「馬城杯」記念大会(事業)の開催

(1) 昭和55年、第3回大会の開催を記念して、中・高校生及び一般指導者を対象に、元世界卓球チャンピオン「河野満卓球教室」を開催し、世界一の技術と練習方法や指導法の直接指導を受け、卓球を志す選手や指導者の技術向上に大きな成果を取めた。

(2) 昭和62年、第10回大会の開催を記念して、「小・中高生のための卓球教室」を開催し基本技術の習得を中心に実技指導を行い、卓球競技の普及と技術の向上を図った。

(3) 平成9年12月、母校創立100周年記念第20回大会の開催を記念し、次の事業を行った。

<記念事業>

① 母校卓球部へ「卓球競技のビデオ14本セット」(13万円相当)を寄贈

② 記念パーティの開催

③ 記念事業募金(募金額35万円)

④ 感謝状贈呈(故只野喜弘前会長ほか4氏と1社)

⑤ 第20回記念大会の開催

「相馬高校創立100周年記念第20回馬城杯争奪卓球選手権大会」として、馬城会の共催のもとで盛大に開催した。

・参加者600名・10種目

§ 現在の主な役員(平成9年～平成10年)

会 長 西郷徹夫(平成2年～)

副会長 古山正治・佐々木政喜・伏見利博

常任理事 鈴木誠一・高玉忠利・斎藤智英

理 事 小泉直人ほか13名、会員108名

§ むすびにかえて～21世紀への私の願い～

中村一中、相馬女子、原町高校、小高工業、相馬高校の卓球部顧問として、長い間多くの選手を育ててきた。振り返って見ると勝利の喜びから幾星霜、自分が育てた選手のその後を誇りに思ったり、苦渋の眼で眺めたりしてきた。そして、勝つことだけに努力する空しさも知ることになった今、相馬からどんな選手が育ったかも、大切なことなのだが、相馬からどんな人物が育ったかは、もっと大切なことではないかと思うようになった。私の願いは、相馬から卓球を他のスポーツ以上に魅力あるものにし、卓球を一人でも発展させる魅力に満ちた指導者、そしてかつての栄光に輝いた相馬の卓球を復活させるスター選手が多く育つことだ。もうそろそろ、そんな人物が出てきてほしいころだ。相馬高校の卓球の歴史に触れたら、部員もOBもその歴史に課せられた使命であると思うに違いない。

相馬高校卓球部で育った人々にはそれができる。

(相馬高校卓球部OB会/会長 西郷徹夫)

◆ 相馬クラブの活動

代表者 斎藤智英

◇発足：昭和48年、相馬高校OBと相馬女子高校OG、そして「相馬市民卓球教室」に参加した愛好者とともに「相馬クラブ」を結成し、活動を開始した。

現在は、社会人会員の外に卓球を志す中学生高校生も加入して、共に練習に励んでいる。

◇活動：週に1～2回の練習と各種の地域大会の参加を目標に練習しているが、今後は県大会、さらに

は上級大会への出場を目指して活動を高めていきたい。

練習場は、当初中村一中体育館を使用していたが、廃館になったので現在はアルプス電気(株)のご厚意により当社の体育館を借用しており、大変助かっている。

- ◇実績： ☆昭和57年 全国クラブ卓球選手権大会 ダブルス 優勝(小泉・穴戸)
☆平成10年 全国クラブ卓球選手権大会福島県大会(二部)に優勝し、全国大会に出場した。

◆ 相馬卓球スポーツ少年団の活動

相馬卓球スポーツ少年団指導者 鈴木 誠 一

昭和60年頃に従来から活動していた卓球スポーツ少年団が解散し、相高卓球部OB会が中心となってスポーツ少年団の設立をOB会の総会のたびに要望としていただきました。昭和63年5月に相高卓球部OB会の会員6人が指導者として再結成されて以来、初代代表者指導者の伏見利博OB会副会長を中心として、毎週日曜日の午後1時30分から3時30分までの2時間、卓球を主な活動として実施しました。その他に夏の宿泊訓練(キャンプ)やボーリング大会、大堀焼きの体験、芋煮会、Xmas会等のレクリエーションも取り入れ、卓球づけにならないよう団員や保護者も楽しめるような行事も取り入れ活動を続けてきました。

当時は、小学1年生から中学2年生まで対象に団員を募った結果、テレビタレントによる卓球の番組が放映されていたせいもあって、50人を越える入団希望者があり、全員を入団させ指導してきました。しかし、指導者が交替で練習にあたるということで1日3人の指導者を配置しても、1人で15人の団員の指導がつらくきつい時期が数年続いたことが今でも忘れられません。

現在は、高玉忠利OB会常任理事を代表指導者として小学生だけを受け入れ(小学生時代から団員登録していた者は中学に進学しても入団を認めている。)小学1年から小学6年生までの15人を基本練習を中心に指導し、試合1ヶ月前位から応用練習や試合練習を取り入れて指導にあたっています。

スポーツ少年団を結成して10年が過ぎ、団のOBやOGの中には中学や高校、大学等に進学して、それぞれの大会で活躍し、その成績が新聞に掲載されるのをみると、これからも一層頑張っていかなければと強く思っているところです。

◆ 「相馬卓球クラブ」 “たのしい卓球たのしいクラブ”

相馬卓球クラブ会長 佐藤 キミ子

もう、あれから10年が経ってしまったなんて信じられないようです。今、クラブは定着し、会員も増え、和気合い合いのもとに、楽しく練習しています。

この会の発足は、最初に西郷先生による「家庭婦人卓球教室」の開催でした。数名の方が参加し、その後途切れることがなく練習が始まりました。同時に昭和63年に卓球少年スポーツ団が結成され、一緒に旧一中体育館で、練習が始まりました。現在のメンバーとは違いますが、経験者や初心者、次第に会員も増え、最初は技術面でも未熟で、市内の大会止まりでしたが、熱心な練習と努力で、現在は、対外試合にも出られるようになりました。待望の男性も入ってくるようになり平成5年には「相馬卓球クラブ」と改称されました。

今年度は7月に原町市において、“福島県家庭婦人卓球大会”が開催され、当会も参加し、力一杯戦ってきました。残された課題は、いっぱいありました。励みとなるような反省もたくさん出ました。なんといっても仲間のお援や絆がうれしいこのクラブ、“これからも頑張っていこう”と反省と合わせて、次回へのレベルアップを誓い合いました。

毎週日曜日の午後1時30分～なんとか都合をつけてみんなで練習に励んでいます。美容と健康そして大切な懇親とダベリング?そして勝利を目指して頑張っています。

この会がスムーズに運営できますことは、ステキな人的、物的、両面からいつも支えて良い環境をつくって下さっている方々のお陰と、深く感謝を申し上げます。

(指導者、事務局、アルプス電気株式会社様他、等々)

おわりに、今後共、会員の皆様方の頑張りと、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

～あとがきにかえて～

相馬市卓球協会が設立されてから40年経ったが、卓球のあゆみを辿ってみると、相馬地域の卓球の歴史はもっと古く、昭和の初期にはその活動の記録が残っている。

この間、多くの先輩たちが卓球に関わり、練習や試合に汗と涙を流し白球に打ち込んだ青春時代の姿が眼に浮かんでくる。また、それぞれの時代に協会に関わり、協会の維持と発展に力を尽くした歴代の会長、理事長、そして役員の方々の卓球を思う心に触れることができたりして、思い出の多かつまった「卓球協会のあゆみ」である。

人の移り変わりとともに、かつては最も地味なスポーツだといわれてきたこの卓球も、用具の改良に始まって、卓球台がダークグリーンからライトブルーに、ボールも白からオレンジ色に、ユニフォームも色彩の制限を少なくしてファッション性が豊かになり、観客の目を楽しませてくれるスポーツに変身してきたことが卓球競技の人気を高め競技人口の増加を生みだしてきている。

「卓球は、楽しい!」・「みんなで卓球を!」という姿が21世紀の卓球として、そこに輝いて見えてくる。

やがては、次の世代の人たちに移っていくことになるが、協会設立40年を一つの節目として、卓球協会が当地域の卓球を志す子供たち、卓球を生涯の友としている市民愛好者のために、新しい相馬の卓球の歴史の創造に向かってその使命を果たし続けることを願ってやまない。

(相馬市卓球協会/会長 西郷徹夫)

◆ 原町市「よつば卓球クラブ」

会長 佐藤 栄子

- 1 設立年月日 昭和60年4月1日
- 2 設立経過

昭和52年に開設された原町市公民館事業の「婦人学級」のプログラムの中に、料理教室や移動教室などと並んで「婦人卓球教室」が設けられたのを契機に、婦人学級終了後の昭和60年、卓球に魅せられた仲間が相集い、「よつば卓球クラブ」を設立し、活動を開始した。現在は婦人学級のOG以外からも卓球愛好者が加わり、現在の「よつば卓球クラブ」が構成されている。

3 現在の役員・コーチ・会員

<役員>	会長 佐藤 栄子	副会長 朝倉美智子	庶務会計 遠藤悦子		
<コーチ>	浜名 秀雄	相沢 辰男	門馬 昭	西郷 徹夫	佐藤 正幸
<会員>	長山百合子	台内 成子	佐藤三枝子	田原 早苗	山田 志子
	小林 陽子	木幡富士子	佐藤 典子	志賀みえ子	大橋ヨシ子
	木村 朝子	志賀すえ子	橋本美紀子	笠間タケ子	広瀬美智子
	渡部 武	佐藤 政男	草野 忠	新沢 浩	島 信男

4 活動状況

- 練習日 毎週月曜日 10:00~12:00
- ※原町スポーツセンター個人開放日(火・水) 9:00~21:00 自主参加
- 練習場 原町市文化センター5階
- 年間事業計画(平成11年度)
 - 4月・花見(懇親会)
 - 5月・さつき会(懇親会)

- ・県ラージボール卓球選手権大会兼卓球ベテラン会春季大会（郡山）
- ・県すこやかねりんピック（原町）
- 6月 ・エンドウ杯相双卓球選手権大会
- 7月 ・県家庭婦人卓球大会（須賀川）
- ・県ラージボール卓球選手権大会兼卓球ベテラン会夏季大会（郡山）
- 9月 ・県卓球ベテラン会夏季大会（郡山）（硬球・ラージボール）
- 10月 ・原町市民体育大会卓球競技会
- ・第8回県民スポレク祭（須賀川）
- ・二本松の菊人形杯卓球大会
- 11月 ・県卓球ベテラン会秋季大会（郡山）（硬球・ラージボール）
- ・いも煮会（懇親会）
- 12月 ・馬城杯卓球選手権大会（相馬）
- ・新地町民卓球大会（新地）
- ・納会
- 1月 ・新年会
- 2月 ・浮船杯卓球選手権大会（原町）
- 3月 ・総会（懇親会）

○福島県大会の開催（主管）

- ☆平成元年 福島県家庭婦人卓球大会
- ☆平成10年 福島県家庭婦人卓球大会
- ☆平成11年 第7回福島県すこやかねりんピック大会（協力）

○最近の主な成績（平成8年～平成11年…）

<平成8年>

- ・福島県家庭婦人卓球大会（白河市） 第2部 優勝 第4部 優勝

<平成9年>

- ・福島県家庭婦人卓球大会（二本松市） 第4部 優勝 第2部（Aチーム）第3位

<平成10年>

- ・福島県家庭婦人卓球大会（原町市） 第4部 Bブロック優勝
- ・第7回福島県ラージボール卓球選手権大会兼卓球ベテラン会夏季大会（郡山）
 - 初心者部 準優勝 佐藤 政男
 - 40歳・50歳の部 第3位 佐藤三枝子
- ・二本松の菊人形杯卓球大会 50代ラージボールの部 準優勝 佐藤三枝子
 - 第3位 台内 成子
- ・第7回福島県ラージボール卓球選手権大会兼卓球ベテラン会秋季大会（郡山）
 - 60歳以上の部 第3位 西郷 徹夫

<平成11年>

- ・第7回福島県ラージボール卓球選手権大会兼卓球ベテラン会春季大会（郡山）
 - 70歳以上の部 第3位 浜名 秀雄
 - 60歳以上の部 第3位 佐藤 栄子
 - 第3位 西郷 徹夫

- ・クラブのモットー 「百花斉放」・「和気あいあい」

5 事務局所在地（連絡先） 〒975-0016 原町市仲町2-120
 よつば卓球クラブ事務局（会長宅） 佐藤栄子 ☎ 0244-24-2347

◆「よつば卓球クラブ」と私

原町市よつば卓球クラブ会長 佐藤 栄子

昭和52年、主人の転勤で郡山市から原町市に転住してから、友だちづくりや健康づくりのため、原町市公民館の主催する「婦人学級」に参加いたしましたのが、原町での卓球を始めたきっかけでした。この婦人学級は、年10回の開催で料理づくりや新聞の編集・発行、移動教室など楽しいプログラムがあり、その中に「卓球教室」があったのです。私は、郡山でも仲間と卓球を楽しんできたこともあり、この卓球教室がいつも待ちどおしく思っておりました。「婦人学級」が終了した昭和60年4月に、このまま仲間と別れてしまうのを、残念に思う卓球の同好者とともに規約を定め、「よつば卓球クラブ」を設立いたしました。

その後、活動を共にした一部のグループが、活動方針などの意見の違いから離脱し、別なクラブをつくり活動するということがありました。「去る者は追わず、来る者は拒まず」という気持ちで残った同好の仲間と楽しく活動を続け現在にいたっております。最近になって、私たちのクラブから去っていったかつての仲間が、年月を経た今、一人二人と戻って来るようになりました。

私たちのクラブも、平成元年と平成10年には福島県家庭婦人卓球大会、さらに平成11年には第7回福島県すこやかねりんピック卓球競技会の開催に当たっては、主管団体の一つとして中心的な役割を果たすまでのクラブ組織に成長してまいりました。これも、良き指導者、良き仲間の支えがあったればこそと、感謝しております。指導者としては、原町市公民館の主催事業であった「卓球教室」の講師として長い間ご指導を受けてきた浜名秀雄（元 原町市卓球協会会長）コーチを中心に、私たち女性18名、男性5名が指導を受けています。私たちのクラブが目指すものは「卓球をとおして、健康づくりと仲間との心の交流を図る」ことにあります。

楽しく、明るい雰囲気の中で、限られた時間に精一杯練習に励み、爽やかな汗を流し、時には仲間と食事を共にしたり、雑談に花を咲かせたりして充実した一時を過ごしております。

活動の成果につきましては、初心者が多いクラブとしてのスタートでありましたが、長い間の活動により少しずつ競技水準も向上し、この地域の大会では上位に入賞する選手も育ってきております。また、他地区のクラブとの練習会をとおしてお互いに技術の交流や友好を深めるなど、活発な活動を続けております。

今後の課題といたしましては、メンバーの半数が50歳代から60歳代であることから、「上り坂のスポーツから、下り坂のスポーツへ」と切り替えていく意味でも、練習の中心を「ラージボール卓球」におくことも視野にいれる必要があります。それが、さらにまた新しい仲間を増やすことにつながっていくことになればいいと考えております。

私たちの「よつば卓球クラブ」は「百花斉放」「和気あいあい」をモットーとして、これからも「卓球を生涯の友」とする仲間とともに、さらにその輪を広げてゆきたいと願っております。

◆ 原町市「フレンズ卓球クラブ」

会長 堀川 栄子

1. クラブの名称と代表者

フレンズ卓球クラブ 堀川 栄子

2. 設立年月日 昭和62年5月吉日

3. 現在の役員と指導者

部長 堀川 栄子 会計 羽野 京子

指導者として 笠間 文武、門馬 昭、梅田 強

4. 活動状況

- ・ 構成人員（男性5人） 笠間 文武、門馬 昭、梅田 強、佐々木伸郎、佐藤 眞一
（女性10人） 渡部マサ子、清水 鈴子、青田エイ子、羽野 京子、高橋喜枝子
根本 淑子、我妻 美加、天野クニ子、堀川 栄子、柿崎
- ・ 活動時間としては、毎週金曜日 文化センター6階 AM10:00～AM12:00
毎週水曜日 市スポーツセンター AM10:00～AM12:00
毎週火曜日・水曜日 PM19:00～PM21:00

・ 成績としては

家庭婦人卓球大会には、平成9年度の二本松大会から出場しています。

平成10年度の原町市スポーツセンターで行われました、家婦連の試合は、二部Aブロック団体戦。
フレンズA団体戦のメンバーは5人一組 青田・高橋・渡部・堀川・根本で構成しました。

平成9年度 三部で優勝

平成10年度 二部で優勝と皆で頑張っております。

・ クラブのモットー

(1) 健康と若さで充実した生活 (2) 楽しく、楽しく (3) 友達づくり

日頃の家事や子育てから開放され、目一杯気持ちのいい汗を流すのは、とても爽快です。花見や芋煮会、忘年会なども行って会員の親睦を深めてあります。

会では、広く会員を募集しています。健康づくり、楽しい仲間づくりを目指してあなたも一緒にいい汗を流しませんか？ お待ちしています。

5. 連絡先

原町市高見町2-212-2 堀川 栄子

◆ 小高町卓球協会

会長 脇坂 一 男

1. 設立 昭和38年9月

- ### 2. 沿革
- 昭和38年9月 小高町卓球協会設立 初代会長 半谷敬寿氏
40年10月 第1回小高町町民卓球大会開催(平成10年33回大会に至る)
48年4月 二代目会長 菅波勇夫氏
50年6月 小高町卓球教室開催後のスポ少
51年4月 小高クラブ設立 松本森雄 高橋功らで始まる。
53年4月 三代目会長 長谷川幸一氏 卓球教室が小高卓球スポ少となる。
55年～58年 コスモス杯開催
浜通りの中学生、高校生、一般を対称とした団体戦を開催

3. 歴代会長

初代 半谷 敬寿 S 38. 9～48. 3 S 55. 9.13 物故
2代目 菅波 勇夫 S 48. 4～53. 3 H 4. 3 物故
3代目 長谷川幸一 S 53. 4～H9. 3

4代目 脇坂 一男 H 9.4～

4. 現在の主な役員

会 長 脇坂 一男 副会長 田代 保広 理 事 和田 好弘 事務局 南原 裕之
顧 問 長谷川幸一

5. 年間活動内容

1) 小高町町民卓球大会 2) スポーツ少年団指導

6. 小高町出身の主な選手

鈴木重郎治 半谷 敬寿 菅波 勇夫 紺野 幹男 佐藤 敏行 原 晃

7. 連絡先

事務局 〒979-2101 相馬郡小高町片草字一里段55 南原 裕之 TEL0244-44-3512

[小高卓球スポ少]

1. 名 称 小高卓球スポーツ少年団

2. 設 立 昭和53年4月

3. 団員数 平成10年度 小学生 男5名・女12名

指導者 長谷川幸一・原 晃・南原裕之・原 由子・原 久仁枝

4. 指導方針

- 1) 子供の将来を考え、子供のための指導をする。
- 2) 挨拶をキチンとする。
- 3) 返事をしっかりさせる。
- 4) 基本を大切に、能力を向上させる。
- 5) スポーツ愛好家になるように育てる。

5. 活動状況 毎週 月・木曜日の2回、19時から21時まで練習している。

[小高クラブ]

1. 設 立 昭和51年4月

2. 名 称 小高卓球クラブ

3. 代 表 部長 鈴木 敏栄

4. 現在の役員 部長 鈴木 敏栄・副部長 原久 仁枝・会計 南原 裕之・事務局 南原 裕之

5. 連絡先 〒979-2101 小高町片草字一里段55 南原 裕之 TEL 0244-44-3512

6. 構成人員 男10・女5

7. 年間活動計画

- 1) 小高町町民卓球大会協力
- 2) 夏期キャンプ
- 3) 冬期合宿(スキー)
- 4) 県民スポーツ大会参加
- 5) 各種大会参加

◆ 富岡町の卓球

部 長 仲 山 陽 一

[富岡町体育協会卓球部] (富岡卓友会)

・部 長 仲山 陽一

・事務局 伊藤英治・佐藤晴夫

・主な参加大会 福島県総合体育大会・双葉郡総合体育大会・相双地域市町村交歓卓球大会

・主催する大会 富岡町民卓球大会(毎年6月)

・部員数9名

・練習日 毎週火曜・金曜日

・事務局所在地 双葉郡富岡町小浜字中央547-3 伊藤英治 (TEL.0240-22-2266)

[富岡町スポーツ少年団卓球部]

・団 長 伊藤 英治

- ・事務局 佐藤 晴夫
- ・指導者 伊藤英治・佐藤晴夫・丸添隆義・藤社友則
- ・主な参加大会 ENDO 杯卓球大会・双葉杯争奪卓球選手権大会・浮舟杯争奪卓球選手権大会
県総体スポ少相双大会・相双地域市町村交歓卓球大会
- ・部員数 小学生7名・中学生8名
- ・練習日 毎週火曜・金曜日
- ・事務所所在地 双葉郡富岡町字夜の森南4-49 佐藤晴夫 (TEL.0240-22-0234)

◆ 双葉クラブ

会長 大野 光 幸

1. 創 立 昭和52年頃
2. 代表者 初代 横山 実 52年～平成10年 2代目 大野 光幸 平成11年～
3. 現在のクラブ員数 18名
4. 活動状況

双葉クラブは、約20年前地元の高校卒業卓球愛好家4人が集まり、横山実さんを部長に発足しました。当時は試合があると横山さんの家に前日から泊まり酒を飲んだり帰ってから反省会をしたり、またクラブ員でキャンプや旅行等も実施していました。

現在は、当時のメンバーも少なくなり、新メンバーも年々少なくなっていますが、各種大会参加や、毎年実施している双葉クラブ主催「双葉杯卓球大会」の開催、又地元の子供達のスポ少指導員として多方面に活躍しています。

練習は、仕事の都合などにより全員がそろってとはいきませんが毎週火、木、土の夕方6時30分から（土曜日は、6時から）双葉町児童館体育館でスポ少と一緒に練習しています。

今後は卓球をもう一度はじめていたい人や初心者の方も歓迎します。

みんなで楽しく、そしていい汗をかいて卓球に親しんで行きたいと思います。

◆ 新地町卓球クラブ

代表 早 川 清

1. クラブの名称と代表者
「新地町卓球クラブ」 代表者 早 川 清
2. 設立年月日
・「平成元年10月1日」
設立に至った経緯
・現在会員の子供たちが卓球を行っていたこと、会員自身が以前に卓球を経験していたことにより、自分たちでも集まってラリーを楽しもうという主旨で結成されました。
又、各種のスポーツ大会に参加した中で、卓球の持つ緩急自在なテクニックと面白味を目のあたりにし、再度、若い頃の気持ちが蘇り、クラブ結成に動いたこともあります。
3. 現在の役員と指導者
役員体制
・会 長（代表者） 早川 清
・副会長 八巻 京子・桜井 真正
・事務局 門馬みよ子
・指導者 八巻 京子・桜井 真正・中江 義昭・鈴木 正則
・平成3年からは、体育協会にも加盟し年間計画の基に活動しています。
4. 活動状況
・月2回（第2、4）土曜日に、駒ヶ嶺公民館（体育館）において、子供たちから年輩の方まで約20

名の会員が一緒になって練習しています。

- ・練習時間は、夜7時～9時までです。

大会等が近い場合は、臨時練習日も設けます。

- ・町民が卓球を通して、お互いの健康増進と親睦を図るためをモットーに活動しています。又、卓球愛好者の掘り起こしと、底辺拡大を目標にして、平成5年から町民親善卓球大会をクラブが中心になって、平成9年から卓球教室を公民館と協力して開催しています。
- ・現在は、相双地域で各種卓球大会にも参加し、会員自身の技術の向上と他市町村の卓球愛好者との交流も図っているところです。

- ・年間計画（平成11年度）

4月 クラブ総会

7月 松川浦荘杯大会参加

8月 県総体相双地域大会参加

12月 馬城杯選手権大会

12月 町民親善大会開催

1月 相双地域市町村交歓大会参加

3月 相馬市卓球協会親善大会参加

5. 事務局所在地（連絡先）

- ・事務局は、新地公民館の体育協会事務局を窓口とさせていただきます。

- ・連絡先 〒979-2703 新地町小川字向山5

新地町卓球クラブ（代表） 早川 清 TEL：0244-62-2445

第6節 福島県卓球協会いわき支部

〈いわき卓球協会〉

支部長 佐藤 昭典

1) 支部設立当時

昭和初期、いわき支部の卓球活動の流れの中心は東北電力、植田営林署、常陽銀行、国鉄職員など十数名の愛好者であった。昭和7年に信沢要が群馬県から植田営林署に転勤でこられてから各種大会が開催されるようになった。その後、福島民報 永野、平三小教頭 藁谷伸六郎、磐城高校 押切良純、信沢要が中心になって浜通りスポーツ連盟を組織し、現在のいわき卓球協会の土台を造った。

当時の練習場は銀行の会議室、丸ほん（現在家具店）の二階などであり、このころから県内各地で卓球大会が行われるようになってきた。特にいわき地方では磐城高等女学校に卓球部があり、県内で活躍していた。

昭和21年、いわき民報 永野、渋沢祐二、信沢要を中心第一回のチーム戦（磐城卓球選手権）を小名浜の日本水素講堂において行ったのを契機として各種大会が開かれるようになった。

当時、日本水素に、酒井、山本、新妻、水沢、呉羽化学には宮川、平クラブには渋沢、信沢、鷲、星野、井上、馬目、新妻、東北電力に加沢、広辺、金成、その他、工藤（古河）がいわき地方の強豪選手として知られていた。

2) いわき卓球協会の設立

昭和32年、磐城高校教員鈴木民郎が中心となって協会設立にあたり、福島県議会議員坂本浅次郎を会長、渋沢祐二を理事長として石城卓球協会が発足した。その後、市町村合併により、いわき市の誕生と共に、いわき卓球協会と改称、現在にいたっている。

3) 選手強化と活躍したチーム、選手

昭和34年から昭和36年までの3年間、実・学対抗戦を実施したのをはじめ、大学選手（中央大学）

を招待し、中学・高校選手の強化講習会を行うなど青少年選手層の強化につとめた。

実業団大会では、昭和28年～40年まで連続13年間、県大会で優勝し、全国大会に出場した常磐炭鉦チームの活躍があった。その後、昭和46年～50年の4年連続常磐製作所が県大会優勝を飾っている。

昭和40年代になると県大会でのいわき勢の活躍が目立ち、一般男子の遠藤光二（高萩）、安達広、下山田守一、小島篤、佐藤敏行、一般女子の渡辺三代子、石井淑子、高野静子、井戸川貴子、佐藤延枝が優勝を飾っている。

軟式男子では雨沢哲弘、橋本昭夫（吉沢）、安達広、橋本義一、軟式女子でも大森が優勝40才以上の部では佐藤昭典、吉沢昭夫、橋本義一が優勝を飾っている。高校では昭和30年代、宮崎紀・吉田和彦（磐城）井上健一・伊藤昌夫（平工）佐藤武（平商）齊藤恵美子（磐女）、昭和40年代、鈴木啓・小川正浩・桜沢秀二・下山田守一（平工）齊藤好夫・蓬田博（好間）長谷川昭二郎（磐城）安部幸雄（勿来）平栗ヨシエ・山口恵子・遠藤潤・石井淑子・田巻愛子・渡辺三代子（磐一）・高野静子・鈴木春江（平商）長谷川ミツエ（磐女）緑川利子（磐女）、昭和50年代、下山田守夫・小島篤・鈴木誠一（平工）小沢孝一（勿来）鈴木是行（磐城）緑川朝久（磐農）田村浩子（平商）井戸川貴子・下山田久美子（磐女）が県大会で優勝している。

昭和60年代以降では昭和63年の新人大会で丹野哲也（勿工）が優勝したのを最後に10数年いわき地区から県大会優勝者がでていない。団体戦では、男子の平工、磐城、勿工、女子の磐一、磐女、平商が活躍し、特に昭和40年代の平工、磐一の活躍が目立っている。中学校では、団体戦で昭和38年の好間中、昭和58年から昭和59年の植田中の活躍があり、平成に入っては、豊間中の活躍が目立ち、ふくしま国体に大きく貢献した。

平成11年の中体連県大会で男子、小名浜一、女子、勿来一が優勝する。また、磐城一高が高体連県大会において準優勝を果たし、古豪復活の兆しが見える。

なお、現在のいわき卓球協会主催による年間の試合数は、4試合、強化練習会3回、主管試合で11試合、強化試合、年間を合計19試合を数える。

4) 主催事業

大会名称	沿革	参加H10
いわき地区高校・高専大会	S61～	120名
徳姫杯卓球大会	H10～	200名
いわき卓球会長杯大会	S63～	55チーム
いわき卓球選手権大会	S21～	950名

※徳姫杯卓球大会では、時代まっりの行事のなかで内郷卓球協会が主催していた大会（H0～H9）

5) 主管した主な大会・行事

平成4年 会場 内郷一中 撫順市との卓球技術交流会 15名

平成5年 会場 撫順市体育館 撫順市へ青少年卓球団を派遣 9名

6) 卓球競技の普及振興と支部協会の発展に貢献した功労者

洪沢 祐二（S7～S35） 浜通りスポーツ連盟の中心選手として活躍し、又、支部長として卓球協会設立といわき地区卓球の普及・振興に貢献した。

信沢 要（S7～H7） 支部長として又、福島県卓球協会の役員として卓球技術の向上と協会発展に尽力した。

【市町村卓球協会の組織と活動】

①名称 いわき家庭婦人卓球連盟

設立 昭和56年1月1日

主な役員 名譽会長 齊藤恵美子 会長 榎田 利子 理事長 熊坂 紀子
 事務局 長 森井 洋子
 年間事業 いわき家庭婦人卓球大会（個人戦） いわき家庭婦人卓球大会（団体戦）
 （ラージボール）
 年間予算 164,000円
 事務局 植田町館跡3-33（☎ 0246-63-6683）
 ②名称 いわき卓球ベテラン会
 設立 平成6年1月20日
 主な役員 会長 吉沢 昭夫 副会長 酒井 忠久・大橋 征・小沼 仁平・齊藤恵美子
 理事長 鈴木 栄喜 事務局 長 桑原 高志
 年間事業 年令別ラージボール大会 地区対抗ラージボール大会
 いわき市民種目別大会 新春ラージボール大会
 各種大会（ラージボール大会）審判派遣
 年間予算 280,000円
 事務局 平北白土字知原17（☎ 0246-25-0626）
 ③名称 いわき市平卓球協会
 設立 平成元年4月1日
 主な役員 顧問 信沢 要 会長 野木 孝夫 副会長 桑原 高志
 理事長 吉田 武 事務局 長 吉田 武
 年間事業 平地区ふれあい家庭卓球大会（婦人の部、親子ダブルスの部）
 事務局 平字作町二丁目7-2（☎ 0246-22-6270）
 ④名称 小名浜卓球連盟
 設立 昭和42年4月1日
 主な役員 会長 酒井 忠久 副会長 吉田 正・丹野八重子・白土 正衛
 事務局 長 吉田 敏徳
 年間事業 ラージボール大会 いわき市民スポーツ大会
 事務局 中之作字川岸31（☎ 0246-55-7223）
 ⑤名称 勿来卓球協会
 設立 昭和42年4月1日
 主な役員 会長 庄司 文次 副会長 高木 一夫・三瓶 清次 理事長 長谷川昭二郎
 事務局 長 長谷川昭二郎
 年間事業 勿来地区卓球大会
 年間予算 75,000円
 事務局 勿来町酒井字青柳68-1（☎ 0246-65-3010）
 ⑥名称 常磐卓球連盟
 設立 昭和53年4月1日
 主な役員 会長 鈴木 栄喜 副会長 佐藤 聡・齊藤 昌尚 事務局 長 菅原 伸一
 年間事業 常磐地区卓球大会
 年間予算 40,000円
 事務局 常磐湯本町辰ノ口24-1（☎ 0246-42-3737）
 ⑦名称 いわき市内郷卓球協会
 設立 昭和53年3月 日
 主な役員 顧問 吉沢 昭夫 会長 小沼 仁平 副会長 高萩 光 事務局 長 馬目 富弘
 年間事業 内郷地区卓球大会（個人戦） 内郷卓球協会会長杯卓球大会（団体戦）
 年間予算 250,000円

事務局 内郷綴町大木下28-1 (☎ 0246-26-2271)

【卓球クラブ・愛好会の組織と活動】

①名称 勿来卓球クラブ (スポーツ少年団)
代表 三瓶 清次
設立 平成5年9月1日
役員 保護者会長 齊藤 孝
指導者名 三瓶 清次・三瓶ミツエ
活動状況 ア) 活動内容 週4回2時間の練習 県内外の各種大会に参加
イ) 構成人員 小学生・中学生(女子)15名
ウ) 成績 県大会出場程度(個人、団体)
エ) クラブのモットー 夢・目標をもって強くなること

事務局 勿来町酒井酒井原66-2 (☎ 0246-65-4714)

②名称 四倉卓球クラブ
代表 荒川 哲栄
設立 昭和54年4月1日
役員 指導者名 佐藤 忠義・佐藤トミ子・鈴木 秀樹
活動状況 ア) 活動内容 四倉町民卓球大会の開催
少年・少女への卓球指導(週3回2時間の練習)
県内外各種大会への参加
イ) 構成人員 四倉在住の成年、小・中学生
ウ) 成績 県大会出場程度(個人、団体)
エ) クラブのモットー 文武両道、楽しんで強くなる

事務局 四倉町東四丁目66-1 (☎ 0246-32-5812)

③名称 みやた卓球クラブ
代表 宮田 英夫
設立 平成3年10月1日
役員 保護者会長 田巻 幸一
指導者名 宮田 英男・渡辺 貴史・大田原 保・丹野哲也
田子 光輝・岡部 和恵

活動状況 ア) 活動内容 週3~4回練習 各種大会参加
イ) 構成人員 小・中学生 男女13名
ウ) 成績 県・全国大会出場
エ) クラブのモットー 創意・工夫・努力

事務局 いわき市平作町1-2-2 神田ビル201 (☎ 0246-22-0131)

④名称 ラージボール愛好会
代表 吉沢 昭夫
設立 平成10年4月1日
役員 会長 吉沢 昭夫 事務局長 平井 実
活動状況 ア) 活動内容 毎週火・金曜日の2回練習
イ) 構成人員 60才以上8名、60才以下1名
ウ) 成績 (活躍した選手)
吉沢 昭夫 平成9年全国スポレク祭県代表
桑原 高志 平成9年全国スポレク祭県代表
吉沢 昭夫 平成10年すこやかネンリンピック県代表
小沼 仁平 平成10年すこやかネンリンピック県代表

エ) クラブのモットー 健康の維持・ラージボールの普及拡大

事務局 内郷綴町大木下28-1 (☎ 0246-26-2271)

【いわき卓球協会歴代会長】

昭和21年～28年	浜通りスポーツ連盟会長	速沼 龍輔
昭和29年～31年	石城体育協会卓球部長	押切 良純
昭和32年～40年	石城卓球協会会長	坂本浅次郎
昭和41年～47年	いわき卓球協会会長	坂本浅次郎
昭和48年～53年	いわき卓球協会会長	蛭田 馨
昭和54年～60年	いわき卓球協会会長	沼田 一之
昭和61年～平成8年	いわき卓球協会会長	田中 直紀
平成9年～	いわき卓球協会会長	佐藤 昭典

【福島県卓球協会いわき支部】

歴代役員

支部長	藁谷伸六郎(S・21～25)	押切 良純(S・26～29)	洪沢 祐二(S・30～35)
	信沢 要(S・36～48)	蛭田 馨(S・49～53)	沼田 一之(S・54～60)
	田中 直紀(S・61～H・7)	佐藤 昭典(H・8～)	
理事長	藁谷伸六郎(S・21～25)	押切 良純(S・26～29)	洪沢 祐二(S・30～35)
	信沢 要(S・36～43)	佐藤 昭典(S・44～47)	山崎 勲(S・48～49)
	吉沢 昭夫(S・50～56)	雨沢 哲弘(S・57～H・7)	野木 孝夫(H・8～9)
	白土 正衛(H・10～)		
事務局長	藁谷伸六郎(S・21～25)	押切 良純(S・26～29)	洪沢 祐二(S・30～35)
	信沢 要(S・36～37)	大橋 柁(S・38～44)	山崎 勲(S・45～47)
	鈴木 理介(S・48～53)	雨沢 哲弘(S・54～55)	武田喜美男(S・56～)
	白土 正衛(S・57～H・7)	鈴木 榮喜(H・8～)	

【いわき卓球協会役員】(H・11)

顧問	信沢 要・山崎 勲・田中 直紀
会長	佐藤 昭典
副会長	大橋 柁・吉沢 昭夫・雨沢 哲弘・鈴木理介・野木孝夫
理事長	白土 正衛
副理事長	橋本 義一・鈴木 是行
常任理事	吉田 武・宮田 英夫・先崎 清・大嶋 克子・斉藤恵美子・佐藤トミ子 櫛田 利子・浅川 康夫
理事	佐藤 富弘・高萩 光二・桑原 高志・三瓶 清次・下山田守一・澁谷 博光 大平 繁則・小野 匡之・丹治 一記・渡辺 俊行・橋本 彰夫・野崎山美子 菅野 祐智・井田 玲子
監事	吉田 清三・坂本 良弘・鳥居 孝榮
事務局長	鈴木 榮喜
事務次長	熊田 礼一
会計	新井田円子

理事長 白土正衛(記)